(様式第 9)

自医経第１９４号
平成２４年１０月５日

関東信越厚生局長　殿

開設者名　学校法人自治医科[redacted]
理事長　香山　充[redacted]

自治医科大学附属病院の業務に関する報告について

標記について、医療法（昭和 23 年法律第 205 号）第 12 条の 3 の規定に基づき、平成 23 年度の業務に関して報告します。

記

1　高度の医療の提供の実績　→　別紙参照(様式第 10)
2　高度の医療技術の開発及び評価の実績　→　別紙参照(様式第 11)
3　高度の医療に関する研修の実績

研修医の人数	１９７　人

(注)　前年度の研修医の実数を記入すること。

4　診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の体系的な管理方法
　　→　別紙参照(様式第 12)
5　診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法及び閲覧の実績
6　他の病院又は診療所から紹介された患者に対する医療提供の実績
　　→　別紙参照(様式第 13)
7　医師、歯科医師、薬剤師、看護師及び准看護師、管理栄養士その他の従業者の員数

職種	常勤	非常勤	合計	職種	員数	職種		員数
医師	682人	254人	730.7人	看護補助者	25人	診療エックス線技師		0人
歯科医師	22人	24人	23.5人	理学療法士	18人	臨床検査	臨床検査技師	116人
薬剤師	66人	0人	66. 人	作業療法士	9人		衛生検査技師	0人
保健師	3人	0人	3. 人	視能訓練士	6人		その他	0人
助産師	56人	3人	58.1人	義肢装具士	0人	あん摩マッサージ指圧師		0人
看護師	1,162人	59人	1204.4人	臨床工学技士	19人	医療社会事業従事者		9人
准看護師	0人	0人	0. 人	栄養士	0人	その他の技術員		16人
歯科衛生士	7人	2人	8.6人	歯科技工士	2人	事務職員		108人
管理栄養士	13人	0人	13. 人	診療放射線技師	70人	その他の職員		11人

(注)　1　報告を行う当該年度の 10 月 1 日現在の員数を記入すること。
　　　2　栄養士の員数には、管理栄養士の員数は含めないで記入すること。
　　　3　「合計」欄には、非常勤の者を当該病院の常勤の従事者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下 2 位を切り捨て、小数点以下 1 位まで算出して記入すること。それ以外の欄には、それぞれの員数の単純合計員数を記入すること。

8　入院患者、外来患者及び調剤の数
　歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科の入院患者及び外来患者の数

	歯科等以外	歯科等	合計
1日当たり平均入院患者数	896　人	14　人	910　人
1日当たり平均外来患者数	2,515　人	130　人	2,645　人
1日当たり平均調剤数	2,539　剤		

(注)　1　「歯科等」欄には、歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科を受診した患者数を、「歯科等以外」欄にはそれ以外の診療科を受診した患者数を記入すること。
　　　2　入院患者数は、年間の各科別の入院患者延数(毎日の 24 時現在の在院患者数の合計)を暦日で除した数を記入すること。
　　　3　外来患者数は、年間の各科別の外来患者延数をそれぞれ病院の年間の実外来診療日数で除した数を記入すること。
　　　4　調剤数は、年間の入院及び外来別の調剤延数をそれぞれ暦日及び実外来診療日数で除した数を記入すること。

（様式第10）

高度の医療の提供の実績

1 承認を受けている先進医療の種類（注1）及び取扱患者数

先進医療の種類	取扱患者数
胎児心音超音波検査	66人
骨髄細胞移植による血管新生療法	0人
硬膜外腔内視鏡による難治性腰下肢痛の治療	12人
超音波骨折治療法（四肢の骨折（治療のために手術中に行われるものを除く。）のうち観血的手術を実施したもの（開放骨折又は粉砕骨折に係るものを除く。）に係るものに限る。）	0人
光トポグラフィー検査を用いたうつ症状の鑑別診断補助	2人
内視鏡的大腸粘膜下層剥離術	95人
先天性難聴の遺伝子診断	1人
腹腔鏡下直腸固定術	4人
腹腔鏡下スリーブ状胃切除術	0人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人

（注1）「先進医療の種類」欄には、厚生労働大臣の定める先進医療及び施設基準（平成二十年厚生労働省告示第百二十九号）第二各号に掲げる先進医療について記入すること。

（注2）「取扱患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

（様式第10）

高度の医療の提供の実績

2 承認を受けている先進医療の種類（注1）及び取扱患者数

先進医療の種類	取扱患者数
悪性黒色腫におけるセンチネルリンパ節の同定と転移の検索	4人
腋窩リンパ節郭清術の実施前におけるセンチネルリンパ節の同定及び生検	189人
頸部内視鏡手術　甲状腺濾胞腺腫、腺腫様甲状腺腫、バセドウ病又は原発性上皮小体機能亢進症	0人
パクリタキセル静脈内投与（1週間に1回投与するものに限る。）及びカルボプラチン腹腔内投与（3週間に1回投与するものに限る。）の併用療法　上皮性卵巣がん、卵管がん又は原発性腹膜がん	7人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人

（注1）「先進医療の種類」欄には、厚生労働大臣の定める先進医療及び施設基準（平成二十年厚生労働省告示第百二十九号）第三各号に掲げる先進医療について記入すること。

（注2）「取扱患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

（様式第10）

高度の医療の提供の実績

3 その他の高度の医療

医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			

（注） 当該医療機関において高度の医療と判断するものが他にあれば、前年度の実績を記入すること。

（様式第10）

高度の医療の提供の実績

4 特定疾患治療研究事業対象疾患についての診療

疾　患　名	取扱患者数	疾　患　名	取扱患者数
・ベーチェット病	96人	・膿疱性乾癬	10人
・多発性硬化症	76人	・広範脊柱管狭窄症	38人
・重症筋無力症	128人	・原発性胆汁性肝硬変	33人
・全身性エリテマトーデス	376人	・重症急性膵炎	13人
・スモン	1人	・特発性大腿骨頭壊死症	43人
・再生不良性貧血	65人	・混合性結合組織病	63人
・サルコイドーシス	129人	・原発性免疫不全症候群	4人
・筋萎縮性側索硬化症	53人	・特発性間質性肺炎	30人
・強皮症，皮膚筋炎及び多発性筋炎	205人	・網膜色素変性症	19人
・特発性血小板減少性紫斑病	144人	・プリオン病	0人
・結節性動脈周囲炎	45人	・肺動脈性肺高血圧症	16人
・潰瘍性大腸炎	274人	・神経線維腫症	14人
・大動脈炎症候群	49人	・亜急性硬化性全脳炎	1人
・ビュルガー病	22人	・バッド・キアリ（Budd-Chiari）症候群	1人
・天疱瘡	37人	・慢性血栓塞栓性肺高血圧症	9人
・脊髄小脳変性症	95人	・ライソゾーム病	4人
・クローン病	194人	・副腎白質ジストロフィー	0人
・難治性の肝炎のうち劇症肝炎	2人	・家族性高コレステロール血症（ホモ接合体）	0人
・悪性関節リウマチ	7人	・脊髄性筋委縮症	5人
・パーキンソン病関連疾患（進行性核上性麻痺、大脳皮質基底核変性症及びパーキンソン病）	309人	・球脊髄性筋委縮症	14人
		・慢性炎症性脱髄性多発神経炎	30人
・アミロイドーシス	6人	・肥大型心筋症	7人
・後縦靱帯骨化症	86人	・拘束型心筋症	0人
・ハンチントン病	1人	・ミトコンドリア病	6人
・モヤモヤ病（ウィリス動脈輪閉塞症）	44人	・リンパ脈管筋腫症（LAM）	2人
・ウェゲナー肉芽腫症	10人	・重症多形滲出性紅斑（急性期）	0人
・特発性拡張型（うっ血型）心筋症	45人	・黄色靱帯骨化症	2人
・多系統萎縮症（線条体黒質変性症、オリーブ橋小脳萎縮症及びシャイ・ドレーガー症候群）	47人	・間脳下垂体機能障害（PRL分泌異常症、ゴナドトロピン分泌異常症、ADH分泌異常症、下垂体性TSH分泌異常症、クッシング病、先端巨大症、下垂体機能低下症）	70人
・表皮水疱症（接合部型及び栄養障害型）	0人		

（注）「取扱患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

（様式第10）

高度の医療の提供の実績

5 健康保険法の規定による療養に要する費用の額の算定方法に先進医療から採り入れられた医療技術

施設基準等の種類	施設基準等の種類
・実物大臓器立体モデルによる手術計画	・
・胎児心音超音波検査	・
・眼底3次元画像解析	・
・乳がんセンチネルリンパ節の同定と転移の検索	・
・悪性黒色腫におけるセンチネルリンパ節の同定と転移の検索	・
・超音波骨折治療法	・
・内視鏡的大腸粘膜下層剥離術	・
・先天性難聴の遺伝子診断	・
・腹腔鏡下直腸固定術	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・

（注）「施設基準等の種類」欄には、業務報告を行う3年前の4月以降に、健康保険法の規定による療養に要する費用の額の算定方法（平成六年厚生省告示第五十四号）に先進医療（当該病院において提供していたものに限る。）から採り入れられた医療技術について記入すること。

6 病理・臨床検査部門の概要

臨床検査及び病理診断を実施する部門の状況	①. 臨床検査部門と病理診断部門は別々である。 2. 臨床検査部門と病理診断部門は同一部門にまとめられている。
臨床部門が病理診断部門或いは臨床検査部門と開催した症例検討会の開催頻度	78回
部検の状況	部検症例数　46　例　／　部検率　5.7%

（様式第11）

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

1.研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元	
夜間睡眠時トリガー血圧計の開発と臨床応用へ向けた国際多施設研究への展開	苅尾七臣	循環器内科	416万円	補	文部科学省科学研究費補助金（基盤研究Ｂ）
加齢・認知症における脳皮質下病変の危険因子とその臨床的意義に関する縦断研究	苅尾七臣	循環器内科	150万円	補	厚生労働省科学研究費補助金（長寿医療研究開発費）
急性期脳卒中への内科複合治療の確立に関する研究	苅尾七臣	循環器内科	70万円	補	厚生労働省科学研究費補助金（循環器疾患・糖尿病等生活習慣病対策総合研究事業）
東日本大震災避難所・仮設住宅における遠隔血圧モニタリングシステムの臨床への応用	苅尾七臣	循環器内科	500万円	補	日本循環器学会循環器臨床研究助成
メタボリックシンドロームにおける血管老化予防の新戦略	江口和男	循環器内科	65万円	補	文部科学省科学研究費補助金（基盤研究Ｃ）
末梢動脈圧脈波から中心血圧の新たな推定法の検討	宮下　洋	循環器内科	65万円	補	文部科学省科学研究費補助金（基盤研究Ｃ）
自然炎症による生活習慣病の分子基礎：インフラマソームを介した ストレス誘導性炎症仮説の解明	高橋将文	循環器内科	7,078万	補	独立行政法人日本学術振興会 先端研究助成基金助成金 （最先端・次世代研究開発支援プログラム）
難治性心臓病における自然免疫経路を介した初期炎症反応の 役割の解明と新たな治療法の開発	高橋将文	循環器内科	500万	補	車両競技公益資金記念財団
メタボリック症候群から腹部動脈硬化・大動脈瘤の形成に至る 病態での腸内フローラの役割の解明	高橋将文	循環器内科	200万	補	ヤクルト・バイオサイエンス研究財団
心血管疾患における初期炎症惹起の分子的機序の解明とその治療への応用	高橋将文	循環器内科	100万	補	第一三共生命科学研究振興財団

計　10

2.論文発表等の実績

雑　誌　名	題名	発表者名	所属部門
Int J Hypertens Epub 2011;Mar 28	Ambulatory blood pressure monitoring in diabetes and obesity-a review.	Eguchi K.	循環器内科
Hypertens Res 2011;34:1171-1172	A call wider use of ambulatory blood pressure monitoring in patients with diabetes	Eguchi K.	循環器内科
Blood Press Monit 2011;16:142-148	Correlations between different measures of clinic, home, and ambulatory blood pressure in hypertensive patients.	Eguchi K	循環器内科
Int J Hypertens; Epub 2011;Mar 14	A case of syncope induced in the supine position.	Eguchi K	循環器内科
Cardiovasc Res 2011;90:364-372	Critical role of Th17 cells in inflammation and neovascularization after ischemia.	Hata T	循環器内科
Blood Press Monit. 2011;16:172-179	Relationship between the change in left ventricular hypertrophy and asleep blood pressure after sodium restriction and/or diuretic treatment.	Ishikawa J	循環器内科
Blood Press Monit 2011;16:159-167	Age and the Difference between Awake Ambulatory Blood Pressure and Office Blood Pressure: a Meta-analysis.	Ishikawa J	循環器内科
Journal of Medical Ultrasonics; online first 2011.12.21	Left Ventricular Apical and Atrial Appendage Thrombus with Hypertrophic Cardiomyopathy in Sinus Rhythm: a case report.	Izumi M	循環器内科
Acta Cardiol. 2011;66:729-735	Advantages and limitations of antihypertensive treatment for stroke risk in a general population: The Akita Stroke Registry.	Izumi M	循環器内科
International Medical Case Reports Journal 2011;4:93-96	Successful Management of Aortic Thrombi Resulted in Spinal Cord Infarction in a Patient with Antiphospholipid Antibody Syndrome (APS) during Hospital Course of Acute Cholecystitis.	Izumi M	循環器内科
Journal of Arrythmia 2011;27:208-213	The relationship between optimization for cardiac resynchronization therapy by measurement of dp/dt and the middle-to-long-term prognosis of heart failure patients	Kabutoya T	循環器内科
J Am Soc Hypertens. 2011;5:354-358	Are melatonin and its receptor agonist specific antihypertensive modulators of resistant hypertension caused by disrupted circadian rhythm?	Kario K.	循環器内科
Lancet. 2011:378;1125-1127	Development of a disaster cardiovascular prevention network.	Kario K	循環器内科
Eur Heart J. 2011;32:574-580	Additional impact of morning haemostatic risk factors and morning blood pressure surge on stroke risk in older Japanese hypertensive patients.	Kario K	循環器内科

J Hypertens. 2011;29:2433-2439	Morning blood pressure surge, morning platelet aggregation, and silent cerebral infarction in older Japanese hypertensive patients.	Kario K	循環器内科
Circulation 2011;123:594-604	Inflammasome activation of cardiac fibroblasts is essential for myocardial ischemia reperfusion injury.	Kawaguchi M	循環器内科
Am J Hypertens. 2011;24:466-473	Urinary albumin excretion during angiotensin II receptor blockade: comparison of combination treatment with a diuretic or a calcium-channel blocker.	Matsui Y	循環器内科
Atherosclerosis. 2011;215:184-188	Association between aldosterone induced by antihypertensive medication and arterial stiffness reduction: the J-CORE study.	Matsui Y	循環器内科
Hypertension. 2011;57:1087-1093	Maximum value of home blood pressure: a novel indicator of target organ damage in hypertension.	Matsui Y	循環器内科
Atherosclerosis. 2011;219:637-642	Association between home arterial stiffness index and target organ damage in hypertension: Comparison with pulse wave velocity and augmentation index.	Matsui Y	循環器内科
J Am Soc Hypertens. 2011;5:184-192	Visit-to-visit blood pressure variations: new independent determinants for carotid artery measures in the elderly at high risk of cardiovascular disease.	Nagai M	循環器内科
Hypertension. 2011;58:e16	Visit-to-visit blood pressure variability and carotid artery atherosclerosis: heart rate was not a confounder.	Nagai M	循環器内科
Hypertens Res 2011;34:1253-1254	Chronic kidney disease, 24-h blood pressure burden and their effects on silent cerebral injury and cognitive impairment: might age serve as a modulator?	Nagai M	循環器内科
Atherosclerosis. 2011;214:490-491	Antiplatelet therapy effectively reduces plasma plasminogen activator inhibitor-1 levels.	Sakata T	循環器内科
J Cardiol. 2011;57(2):141-147	Granzyme B as a novel factor involved in cardiovascular diseases	Saito Y	循環器内科
Clin Exp Hypertens. 2011;33:209	Preface - 12th Japanese Annual Conference on chronocardiology and hypertension.	Shimada K	循環器内科
Atherosclerosis. 2011;219:316-321	The relationship between the morning blood pressure surge and low-grade inflammation on silent cerebral infarct and clinical stroke events.	Shimizu M	循環器内科
Cerebrovasc Dis. 2011;31:100-106	Blood pressure and total cholesterol level are critical risks especially for hemorrhagic stroke in Akita, Japan.	Suzuki K	循環器内科
J Clin Hypertens (Greenwich). 2011;13:658-661	Central sympatholytic drugs.	Vongpatanasin W	循環器内科

Hypertens Res. 2011;34:423-430	Use of dihydropyridine calcium channel blockers in the management of hypertension in Eastern Asians: a scientific statement from the Asian Pacific Heart Association.	Wang JG	循環器内科
Plast Reconstr Surg 2011;127:78-87	Luminescence imaging of regenerating free bone graft in rats.	Yamaguchi A	循環器内科
Am J Hypertens. 2011;24:783-788	Evening heart rate measured at home is associated with visceral obesity and abnormal fat distribution in patients with hypertension.	Yano Y	循環器内科
Am J Hypertens. 2011;24:437-443	Regional differences in hypertensive cardiovascular remodeling between fishing and farming communities in Japan.	Yano Y	循環器内科
J Renin Angiotensin Aldosterone Syst. 2011;12:340-347	Efficacy of eplerenone added to renin-angiotensin blockade in elderly hypertensive patients: the Jichi-Eplerenone Treatment (JET) study.	Yano Y	循環器内科
Atherosclerosis. 2011;219:273-279	Synergistic effect of chronic kidney disease and high circulatory norepinephrine level on stroke risk in Japanese hypertensive patients.	Yano Y	循環器内科
Am J Hypertens. 2011;24:285-291	Association of poor physical function and cognitive dysfunction with high nocturnal blood pressure level in treated elderly hypertensive patients.	Yano Y	循環器内科
Hypertens Res. 2011;34:36-38	The risk of cold temperature: an important aspect of the determination of morning blood pressure surge.	Yano Y	循環器内科

計37

（様式第11）

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元	
戦略的研究基盤形成支援事業	三澤吉雄	心臓血管外科	200万円	補 委	文部科学省
				補 委	
				補 委	
				補 委	
				補 委	
				補 委	
				補 委	
				補 委	

計 1

（注） 1 国、地方公共団体又は公益法人から補助金の交付又は委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技 術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。

2 「研究者氏名」欄は、1つの研究について研究者が複数いる場合には、主たる研究者の氏名を記入すること。

3 「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」に、委託の場合は「委」に、○印をつけた上で、補助元又は委託元を記入すること。

2 論文発表等の実績

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
胸部外科64(12):1086-1089, 2011.	術中基部破裂をきたした急性大動脈解離. 胸部外科64(12):1086-1089,2011.	梛澤壮樹	心臓血管外科
胸部外科64(7):590-593, 2011.	大動脈炎症候群に起因する腎性高血圧に対する上行大動脈ー腹部大動脈バイパス術の1例.	村山歩	心臓血管外科
日心外会誌40(4):202-205, 2011.	心嚢内に突出した転移性右房腫瘍の1例.	針谷明房	心臓血管外科
胸部外科64(10):887-893, 2011.	A下行大動脈置換術後に発症した腹部臓器虚血に対するステント治療.	白石学	心臓血管外科
Gen Thorac Cardiovasc Surg 59(6):433-345,2011.	Starr-Edwards valves at the aortic and mitral positions implanted for 39 years.	Misawa S	心臓血管外科
Ann Thorac Cardiovasc Surg 17(4):415-417,2011.	Septic embolic occulusion of the superior mesenteric artery induced by mitral valve endocarditis.	Misawa S	心臓血管外科
Ann Thorac Cardiovasc Surg 17(4):313-315,2011.	Infection of pacemaker lead by penicillin-resistant streptococcus pneumoniae.	MoritaH	心臓血管外科
Gen Thorac Cardiovasc Surg 59(10):709-711,2011.	Surgical removal of a fractured guidewire in the coronary artery.	Muraoka A	心臓血管外科
Eur J Cardiothorac Surg 40: e133,2011.	Thrombus arising from ascending aorta.	Shiraishi M	心臓血管外科
Interact Cardiovaasc Thorac Surg 13:187-	Omental transfer as the strategy for postoperative deep wound infection	Misawa Y	心臓血管外科
胸部外科 65:245-248,2012	左開胸アプローチによる中枢側自動吻合器を持ちいた再CABGの1例	梛澤壮樹	心臓血管外科

計11

（注） 1 当該医療機関に所属する医師等が、掲載に当たって内容審査を行っている雑誌に研究成果を原著論文として申請の前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断されるものを100件以上記入すること（当該医療機関に所属する医師等が主たる研究者であるものに限る。）。

2 「発表者氏名」欄は、1つの論文発表について発表者が複数いる場合は、主たる発表者の氏名を記入すること。

（様式第11）

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元	
Shhの腸上皮化生粘膜における低下の原因	武藤弘行	消化器内科	1,170,000円	(補)・委	基盤研究C
胃癌の前癌病変である腸上皮化生粘膜における転写因子Cdx2とCdx1の関係	武藤弘行	消化器内科	1,170,000円	(補)・委	基盤研究C
感染発がんエンハンサーとしての宿主応答とその制御	武藤弘行	消化器内科	3,900,000円	(補)・委	新学術領域
胃腸上皮化生粘膜における腸粘膜上皮幹細胞の発現	武藤弘行	消化器内科	1,690,000円	(補)・委	基盤研究C
				補・委	
				補・委	
				補・委	
				補・委	
				補・委	

計 4

（注） 1 国、地方公共団体又は公益法人から補助金の交付又は委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。

2 「研究者氏名」欄は、1つの研究について研究者が複数いる場合には、主たる研究者の氏名を記入すること。

3 「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」に、委託の場合は「委」に、○印をつけた上で、補助元又は委託元を記入すること。

2 論文発表等の実績

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
Clin Exp Nephrol;15:289-293,2011	Steroid treatment in patients with membranous nephropathy and hepatitis B virus surface antigenemia: a report of two	Isoda N	消化器内科
J Obstet Gynaecol Res ;37:963-964, 2011	Jaundice as the first manifestation of primary biliary cirrhosis during pregnancy: measurement of portal vein blood flow.	Isoda N	消化器内科
Differentiation;81:92-98,2011	Sox2 expression is maintained while gastric phenotype is completely lost in cdx2-induced intestinal metaplastic mucosa.	Mutoh H	消化器内科
J Gastroenterol;46:1292-1299, 2011	Sox9 is expressed in normal stomach, intestinal metaplasia, and gastric carcinoma in humans.	Mutoh H	消化器内科
Gastrointest Endosc ;74:1157-1161, 2011	Balloon dilation when using double-balloon enteroscopy for small-bowel strictures associated with ischemic enteritis.	Nishimura N	消化器内科
J Gastroenterol ; 46:620-628, 2011	Cell lineage dynamics in the process leading to intestinal metaplasia.	Sakamoto H	消化器内科

Gastrointest Endosc;74:328-333,2011	Nonsurgical management of small-bowel polyps in Peutz-Jeghers syndrome with extensive polypectomy by using double-	Sakamoto H	消化器内科
Arch Virol;156:1345-1358,2011	A nationwide survey of hepatitis E virus (HEV) infection in wild boars in Japan: identification of boar HEV strains of	Sakamoto H	消化器内科
Clin J Gastroenterol;4:15-18, 2011	Diagnosis of gastric antral vascular ectasia by transnasal flexible spectral imaging color enhancement.	Shinhata H	消化器内科
J Gastroenterol Hepatol;26(suppl 3):2-11, 2011	Diagnosis and treatment of functional gastrointestinal disorders in the Asia-Pacific region: a survey of current practices.	Sugano K	消化器内科
J Neurogastroenterol Motil;17 :366-371,2011	Should We still subcategorize Helicobacter pylori- associated dyspepsia as functional disease?	Sugano K	消化器内科
J Gastroenterol;46:724-735,2011	Lansoprazole for secondary prevention of gastric or duodenal ulcers associated with long-term low-dose aspirin therapy: Results of a prospective, multicenter, double-blind, randomized, double-dummy, active-controlled	Sugano K	消化器内科
Gastrointest Endosc;74:940,2011	Flexible spectral-imaging color enhancement: optimized settings for polyp detection?	Sunada K	消化器内科
World J Clin Oncol;2:203-216,2011	Endoscopic diagnosis of extrahepatic bile duct carcinoma: Advances and current limitations.	Tamada K	消化器内科
Techniques in Gastrointestinal Endoscopy;13:79-83, 2011	Endoscopic submucosal dissection using small-caliber-tip transparent hood and sodium hyaluronate.	Yamamoto H	消化器内科
Transpl Int ;24:85-90, 2011	Double-balloon enteroscopy for bilioenteric anastomotic stricture after pediatric living donor liver transplantation.	Yano T	消化器内科
Dig Endosc;23:206,2011	New technique for direct percutaneous endoscopic jejunostomy using double-balloon endoscopy and magnetic anchors in a porcine model.	Yano T	消化器内科

計 17

(注) 1 当該医療機関に所属する医師等が、掲載に当たって内容審査を行っている雑誌に研究成果を原著論文として申請の前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断されるものを100件以上記入すること(当該医療機関に所属する医師等が主たる研究者であるものに限る。)。

2 「発表者氏名」欄は、1つの論文発表について発表者が複数いる場合は、主たる発表者の氏名を記入すること。

（様式第11）

高度の医療技術の開発及び評価の実績

1 研究費補助等の実績 ［平成23年4月～平成24年3月まで］

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託先
難治性疾患克服研究事業	佐田尚宏	消化器外科	100万	(補) 委 厚生労働省科学研究費
JBCRG-5	穂積康夫	一般外科	56万	補 (委) Japan Breast Cancer Research Group
				補 委
				補 委
				補 委
				補 委
				補 委
				補 委
				補 委
				補 委
				補 委
				補 委
				補 委
				補 委
				補 委

2件

（注）1 国、地方公共団体または公益法人からの補助金の交付または委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。
2 「研究者氏名」欄は、一つの研究について研究者が複数いる場合は、主たる研究者の氏名を記入すること。
3 「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」に、委託の場合は「委」に、○をつけた上で、補助元又は委託元を記入すること。

2 論文発表等の実績　[平成23年4月～平成24年3月まで]

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
Gastroenterological Endoscopy	Gross C型先天性食道閉鎖症術後難治性食道狭窄に対し経胃瘻孔的内視鏡を併用して磁石圧迫吻合術を施行した症例.	春田英律	消化器・一般外科
日本門脈圧亢進症学会雑誌	低侵襲性を重視した胃食道静脈瘤に対する血行郭清術の検討	俵藤正信	消化器・一般外科
移植	肝移植後難治性門脈狭窄に対し経皮経肝的脾腎シャント塞栓術と門脈ステント留置術を施行した1例	本間祐子	消化器・一般外科
臨床外科	魚骨による横行結腸穿通の1例	金丸理人	消化器・一般外科
胆道	胆管内に進展し閉塞性黄疸をきたしたポリープ型十二指腸乳頭部癌の1例	金丸理人	消化器・一般外科
日本臨床外科学会雑誌	長期生存中の妊娠併存後腹膜粘液型脂肪肉腫の1例	黒河内　顕	消化器・一般外科
日本内視鏡外科学会雑誌	腹腔鏡下に胃全摘術と回盲部切除術を一期的に施行した胃・上行結腸重複癌の1例	巷野佳彦	消化器・一般外科
臨床外科	【進歩する癌転移診断　外科臨床はどう変わるのか】原発巣別　大腸癌	鯉沼広治	消化器・一般外科
自治医大紀要	全身転移を有する乳癌患者の右房粘液腫に対し，対外循環下に摘出術を行った1例	小松原利英	消化器・一般外科
乳癌の臨床	周術期に化学療法を受けた乳癌患者に対するアプレピタントの制吐効果の検討	宮﨑千絵子	消化器・一般外科
乳癌の臨床	乳房内に発症した間質肉腫の2例	宮﨑千絵子	消化器・一般外科
日本小児外科学会雑誌	多発性肝腫瘍を合併した静脈管開存症に対し静脈管結紮切離術が有効であった1例	森　美鈴	消化器・一般外科
日本臨床外科学会雑誌	腹腔鏡観察が有用であった腸管気腫症の1例	森本光昭	消化器・一般外科
肝臓	高脂血症を合併した肝細胞癌の1例	森嶋　計	消化器・一般外科
日本消化器外科学会雑誌	単発性肝転移と多発性骨転移を来し肝細胞癌との鑑別が困難であった分化型甲状腺癌の1例	仁平芳人	消化器・一般外科
日本臨床外科学会雑誌	サルコイドーシスを併存した食道アカラシアの1例	齋藤　心	消化器・一般外科

16件

(注)　1　当該医療機関に所属する医師等が、掲載に当って内容審査を行っている雑誌に研究成果を原著論文として申請の前年度に発表したもののうち、高度医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。(当該医療機関に所属する医師等が主たる研究者であるものに限る)

2　「発表者氏名」欄は、一つの論文発表について発表者が複数いる場合には、主たる発表者の氏名を記入すること。

(様式第11)

高度の医療技術の開発及び評価の実績

2 論文発表等の実績　[平成23年4月～平成24年3月まで]

雑　誌　名	題　　　名	発表者氏名	所属部門
手術	手術手技　十二指腸潰瘍穿孔に対する胆嚢パッチ修復術の有用性	清水　敦	消化器・一般外科
移植	小児生体肝移植後難治性門脈狭窄に対して経皮経肝的ステント留置術を施行した1例	髙木　徹	消化器・一般外科
日本内視鏡学会雑誌	術前に大網嚢腫と診断し内視鏡下に摘出術を施行した1例	横田真一郎	消化器・一般外科
Surgical Endoscopy	Internal hernia after laparoscopic gastric resection with antecolic Roux-en-Y reconstruction for gastric cancer	Hosoya, Y.	消化器・一般外科
American Surgeon	Recurrence invasive ductal carcinoma of the breast presenting as a metastasis to the duodenum with long-term survival	Kumano, H.	消化器・一般外科
Ann Thorac. Surg.	Postperative weight loss does not resolve after esophagectomy despite normal serum ghrelin levels	Koizumi, M.	消化器・一般外科
Clin. J. Gastroenterol .	Carcinoid tumor of the gallbladder : reprot of two cases	Koizumi, M.	消化器・一般外科
Jpn. J. Clin. Oncol .	Pathogenicity of A600V variant in exon 12 of the MSH2 gene detected in a Japanese kindred with Lynch syndrome	Miyakura, Y.	消化器・一般外科
J. Med. Ultrasonics	Experimental evaluation of portal venous pulsatile flow synchronized with heartbeat intervals	Nihei, Y.	消化器・一般外科
J. Dig. Dis.	A clinicopathological and immunohistochemical study of gastric cancer with squamous cell carcinoma components : A clinically aggressive tumor	Saito, S.	消化器・一般外科
Jpn. J. Clin. Oncol .	Spontaneous regression of pulmonary metastases from a malignant phyllodes tumor.	Sadatomo, A.	消化器・一般外科
Surg. Laparosc. Endosc. Percutan. Tech	Laparoscopic-assisted proximal gastrectomy in an obese patient with gastric cancer and myasthenia gravis	Ui, T.	消化器・一般外科
Esophagus	A patient with esophageal squamous cell carcinoma who had a complete pathological response to neoadjuvant chemotherapy with docetaxel, cisplatin, and 5-fluorouraci	Ui, T.	消化器・一般外科
Clin. J. Gastroenterol.	Adenocarcinoma of the minor duodenal papilla treated with pancreas-sparing segmental duodenectomy : case report and review of the literature	Zuiki, T	消化器・一般外科

14件

計30件

(注) 1 当該医療機関に所属する医師等が、掲載に当って内容審査を行っている雑誌に研究成果を原著論文として申請の前年度に発表したもののうち、高度医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。(当該医療機関に所属する医師等が主たる研究者であるものに限る)

2 「発表者氏名」欄は、一つの論文発表について発表者が複数いる場合には、主たる発表者の氏名を記入すること。

（様式第11）

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元	
びまん性肺疾患に関する調査研究	杉山幸比古	呼吸器内科学	54,000,000	(補)委	厚生労働省
				補委	
				補委	
				補委	
				補委	
				補委	
				補委	
				補委	

計 1

(注) 1 国、地方公共団体又は公益法人から補助金の交付又は委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。

2 「研究者氏名」欄は、1つの研究について研究者が複数いる場合には、主たる研究者の氏名を記入すること。

3 「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」に、委託の場合は「委」に、○印をつけた上で、補助元又は委託元を記入すること。

2 論文発表等の実績

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
Intern Med 50:285-289	Clinical features of lymphangioleiomyomatosis complicated by renal angiomyolipomas	水品佳子	呼吸器内科学
Intern Med 50:2371-2374	Primary cardiac angiosarcoma of the right auricle with difficult-to-treat bilateral pleural effusion	右藤智啓	呼吸器内科学
日胸 70:520-525	ダブルバルーン小腸内視鏡で診断した肺大細胞癌小腸転移の1例	中曽根悦子	呼吸器内科学
日胸 70:623-629	大腸癌の肺転移に対するFOLFIRI療法施行中に発症した薬剤性肺炎の1例	中山雅之	呼吸器内科学
Kekkaku 87:9-13	A case of pulmonary tuberculosis with false negative Quanti FERON® TB-2G test	中曽根悦子	呼吸器内科学
気管支学 34:6-10	気道異物症例の臨床的特徴-摘出に難渋した症例に関する考察-	高佐顕之	呼吸器内科学

計 6

(注) 1 当該医療機関に所属する医師等が、掲載に当たって内容審査を行っている雑誌に研究成果を原著論文として申請の前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断されるものを100件以上記入すること（当該医療機関に所属する医師等が主たる研究者であるものに限る。）。

2 「発表者氏名」欄は、1つの論文発表について発表者が複数いる場合は、主たる発表者の氏名を記入すること。

（様式第11）

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元	
				補 委	
				補 委	
				補 委	
				補 委	
				補 委	
				補 委	
				補 委	
				補 委	
				補 委	
				補 委	

計 0

(注) 1 国、地方公共団体又は公益法人から補助金の交付又は委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技 術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。

2 「研究者氏名」欄は、1つの研究について研究者が複数いる場合には、主たる研究者の氏名を記入すること。

3 「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」に、委託の場合は「委」に、O印をつけた上で、補助元又は委託元を記入すること。

2 論文発表等の実績

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
胸部外科64(4):271-274,2011.	原発性自然気胸に対するポリグリコール酸シートテント法.	金井義彦	呼吸器外科
胸部外科64(9):792-795,2011.	胸腔鏡下肺区域切除後に生じる不良肺例の検討.	中野智之	呼吸器外科
呼吸30(8):730-731,2011.	今月の画像;白血病治療中にみられた前縦隔アスペルギルス症の1例.	手塚憲志	呼吸器外科
頭頸部外科21(1):9-13,2011.	胸郭出口部疾患に対する外科治療.	手塚憲志	呼吸器外科
呼吸30(7):651-656,2011.	低酸素負荷時の肺内微小血管の動的解析ー軟X線画像解析装置を用いてー	手塚憲志	呼吸器外科
胸部外科64(4):266-270,2011.	自然気胸に対するソフト凝固法を用いた嚢胞焼灼術.	山本真一	呼吸器外科
Gen Thorac Cardiovasc Surg 59(7):515-517,2011.	Extended sleeve lobectomy for interlobar lymph node metastasis invading the bronchus from peripheral lung	坪地宏嘉	呼吸器外科

計 7

(注) 1 当該医療機関に所属する医師等が、掲載に当たって内容審査を行っている雑誌に研究成果を原著論文として申請の前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断される主なものを記入すること(当該医療機関に所属する医師等が主たる研究者であるものに限る)。

2 「発表者氏名」欄は、1つの論文発表について発表者が複数いる場合は、主たる発表者の氏名を記入すること。

（様式第11）

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元	
残存言語脳機能ｲﾒｰｼﾞﾝｸﾞによる失語症の回復支援研究	渡辺英寿	脳神経外科	8,400,000	(補) 委	独立行政法人日本学術振興会
				補 委	
				補 委	
				補 委	
				補 委	
				補 委	
				補 委	
				補 委	
				補 委	
				補 委	

計 1

（注） 1 国、地方公共団体又は公益法人から補助金の交付又は委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。

2 「研究者氏名」欄は、1つの研究について研究者が複数いる場合には、主たる研究者の氏名を記入すること。

3 「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」に、委託の場合は「委」に、○印をつけた上で、補助元又は委託元を記入すること。

2 論文発表等の実績

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
Clinical Neurophysiology123:1147-1157,2012	Clinically-oriented monitoring of acute effects of methylphenidate on cerebral hemodynamics in ADHD children using fNIRS	Y. Monden	小児科
Neuroscience Research 72:163-171,2012	Stable and convenient spatial registration of stand-alone NIRS deta through anchor-based probabilistic registration	D.Tsuzuki	脳機能研究部門

計 2

（注） 1 当該医療機関に所属する医師等が、掲載に当たって内容審査を行っている雑誌に研究成果を原著論文として申請の前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断されるものを100件以上記入すること（当該医療機関に所属する医師等が主たる研究者であるものに限る。）。

2 「発表者氏名」欄は、1つの論文発表について発表者が複数いる場合は、主たる発表者の氏名を記入すること。

（様式第11）

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元	
糖尿病性腎症の病態解明と新規治療法確立のための評価法の開発	草野　英二	腎臓内科学部門	500,000	補 委	厚生労働省科学研究費補助金
糖尿病性微小血管障害の心腎関連の機序の解明：ナトリウム調節臓器としての腎臓の役割	武藤　重明	腎臓内科学部門	1,300,000	補 委	文部科学省科学研究費補助金
単一のMPO-ANCA産生因子として同定された新規遺伝子の解析	濱野　慶朋	腎臓内科学部門	2,990,000	補 委	文部科学省科学研究費補助金
腎臓特異的siRNAデリバリーシステムの開発および腎線維化遺伝子治療への応用	森下　義幸	腎臓内科学部門	2,600,000	補 委	文部科学省科学研究費補助金
				補 委	
				補 委	
				補 委	
				補 委	
				補 委	

計4

（注）　1　国、地方公共団体又は公益法人から補助金の交付又は委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。

2　「研究者氏名」欄は、1つの研究について研究者が複数いる場合には、主たる研究者の氏名を記入すること。

3　「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」に、委託の場合は「委」に、○印をつけた上で、補助元又は委託元を記入すること。

2 論文発表等の実績

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
腎と骨代謝 24(4):323,2011	腹膜透析患者における血中の遊離型Klotho蛋白に関する検討	秋元　哲、他	腎臓内科学部門
透析会誌44:169-172,2011	内シャント狭窄に対してアルガトロバンによる抗凝固療法下に経皮的血管形成術（PTA）を施行し得たヘパリン起因性血小板減少症（HIT）の1例	秋元　哲、他	腎臓内科学部門
栃木県医学会会誌 41:124-126,2011	腎臓検診判定委員会:栃木県における学校腎臓検診について（平成22年度）	安藤康宏、他	腎臓内科学部門
透析会誌44(7):637-641, 2011	糖尿病性神経障害による疼痛に対してプレガバリンを過量使用し神経症状を呈した血液透析患者の1	福島　栄、他	腎臓内科学部門
日腎会誌53(7):1034-1040, 2011	高安動脈炎による鎖骨下動脈盗血症候群のため血液透析導入に苦慮した症例	橋本安紀子、他	腎臓内科学部門
腎と透析71(別冊腹膜透析2011):95-96,2011	腹膜炎・カテーテル感染症／被嚢性腹膜硬化症 被嚢性腹膜硬化症の予防に対する新たな戦略	平原一郎、他	腎臓内科学部門
腎と透析(71別冊腹膜透析2011):36-38,2011	腹膜透析液の生体適合向上にむけて新しい腹膜機能評価方	平原一郎、他	腎臓内科学部門
臨床体液38:37-41,2011	（薬剤による水・電解質異常・塩酸基平衡）FEureaを指標に利尿剤を中止し，腎機能が改善したネフローゼ症候群の1症例	井上　真、他	腎臓内科学部門
腎炎症例研究27:81-99, 2011	TS-1投与後に難治性腹水とネフローゼ症候群を伴い急速進行性に末期腎不全に至ったTMAの一例	竹本文美、他	腎臓内科学部門
腎と透析71(1):133-143, 2011	腎生検所見から何を学ぶか（No44）日本人にもみられたAA amyloid合併家族性地中海熱の1例	竹本文美、他	腎臓内科学部門
日本内科学会雑誌 100(9):2646-2652,2011	薬剤性腎障害	草野英二	腎臓内科学部門
血圧18(3):303-309,2011	降圧目標値をめざした降圧薬の使い方　CKDに合	草野英二、他	腎臓内科学部門

カレントテラピー 29(8):122-132, 2011	CKDがCVDを促進するメカニズムについて	草野英二、他	腎臓内科学部門
透析会誌44(12):1130-1132,2011	透析患者の心血管病変の管理—レニン・アンジオテンシン(RAS)系抑制剤による透析患者の心血管病抑制効果(第56回日本透析医学会シンポジウムより)	斉藤 修、他	腎臓内科学部門
日本血液浄化技術学会会誌19(2):75-78,2011	ダイアライザー透析液供給側シリコンホース内付着物の分布について	山本尚史、他	腎臓内科学部門
日本血浄化技術学会会誌19(2):37-41,2011	皮膚そう痒症, 固定テープかぶれの予防に新規保湿液を用いた試み	山本尚史、他	腎臓内科学部門
血管炎.臨床透析 27(4):451-456,2011	(透析診療における分子バイオマーカーの新たな展開)各論-日常透析診療に役立つ分子バイオマーカー膠原病	湯村和子、他	腎臓内科学部門
腎と透析2010増刊号:296-301,2011	(AKIとCKDのすべて)CKD CKDにおいて使われる薬剤免疫抑制薬	湯村和子	腎臓内科学部門
日本内科学会雑誌 100(5):1227-1236,2011	(腎症害をきたす全身性疾患-最近の進歩)トピックス自己免疫疾患 全身性エリトマトーデス	湯村和子	腎臓内科学部門
臨床と研究88(5):120-123,2011	高齢者の腎臓病の病態と対応.臨床と研究	湯村和子	腎臓内科学部門
日腎会誌53(5):703-707, 2011	二時性膜性腎症・膜性ループス腎炎をめぐる話題	湯村和子	腎臓内科学部門
Clin Exp Hypertens 33(2):77-83,2011	Clinical features of malignant hypertension with thrombotic microandiopathy	Akimoto、他	腎臓内科学部門
Med Hypotheses77(4):601-604,2011	Reduced hydration status characterized characterized by disproportionate elevation of blood urea nitrogen to serum creatinine among the patients with cerebral infarction	Akimoto,T、他	腎臓内科学部門
Clin Exp Nephrol 15(2):289-293,2011	Steroid treatment in patients with memebranous nephropathy and hepatitis B virus surface antigenemia;a reprt of two cases	Akimoto,T、他	腎臓内科学部門
Clin Exp Nephrol 15(4):586-589,2011	Renal failres caused by plasma cell infiltrarion in multipe myeloma	Hanawa,S、他	腎臓内科学部門
Nephrol Dial Transplant 26(5):1695-1701,2011	Matrix metalloproteinase levels in the drained dialysate reflect the peritoneal solute transport rate: a multicentre study in Japan	Hirahara, I、他	腎臓内科学部門
Clin Exp Nephrol 15(1):154-158,2011.	Tumoral calcinosis associated with hypercalcemia in a patient with chronic renal failure	Horikoshi,R、他	腎臓内科学部門
Adv Perit Dial 27:11-15, 2011	DNA microarray analysis of the epithelial-mesenchymal transition of mesothelial cells in a rat model of peritoneal dialysis	Imai,T、他	腎臓内科学部門
Neohrol Dia Transplant 26(7): 2289-2295,2011	Sleep-disordered breathing predicts bardiovascular events and mortality in hemodialysis patients	Masuda, T、他	腎臓内科学部門
Am J Physiol Regul Integr Comp Physiol 300: R566-576. 2011	The evolutionary aspects of aquaporin family.	Morishita, Y.、他	腎臓内科学部門
Clin Exp Neohrol 15(3):398-404,2011	The association of plasma prorenin level with an pxidative stress marker,8-OHdG, in nondiabetic hemodialysis patients	Morishita, Y.、他	腎臓内科学部門
Ren Fail 33(10):1013-1018, 2011	Establishment of acute kidney injury mouse model by 0.75% adenine ingestion	Morishita, Y.、他	腎臓内科学部門
PLoS One 6(8):e23267,2011	The interaction of LFA-1 on mononuclear cells and ICAM-1 on tubular epithelial cells accelerates TGF-β1-induced renal epithelial-mesenchymal	Morishita, Y.、他	腎臓内科学部門
Hypertens Res 34(3):308-313,2011	Effects of Aliskiren on blood pressure and the predictive biomarkers for cardiovascular disease in hemodialysis-dependent chronic kidney disease patients with hypertension	Morishita, Y.、他	腎臓内科学部門
Intern Med 50(1):47-51 ,2011	A case of cervical cancer-related membranous nephropathy treated with radiation therapy	Nakazawa, E、他	腎臓内科学部門
Clin Exp Nephrol 15(5):769-773,2011	Membranous nephropathy in an HIV-positive patient complicated with hepatitis B infection	Numata, A、他	腎臓内科学部門
Clin Exp Nephrol 15(1):132-135,2011	Clinical remission of Henoch-Schonlein purpura nephritis after a monotherapeutic tonsillectomy	Iwazu, Y、他	腎臓内科学部門
J Hypertens 29(12):2440-2453,2011	Matrix metalloproteinase 2 induces epithelial-mesenchymal transition in proximal tubules from the luminal side and progresses fibrosis in mineralocorticoid/salt-infuced hypertensive rats	Iwazu, Y、他	腎臓内科学部門
Cancer Sci 102(4):720-727, 2011	Deficiency of theErc/mesothelin gene ameliorates renal carcinogenesis in Tsc2 knockout mice	Kobayashi, T、他	腎臓内科学部門

Clin Exp Nephrol 15(6):957-961,2011	Accelerated recover from Candida peritonitis of enteric origin by early surgical drainage in aperitoneal diaysis patient	Kotoda, A、他	腎臓内科学部門
ASAIO J 57(5):439-443, 2011	Central benous stenosis among hemodialsis patients is ofhen not associated with previous central venous catheters	Kotoda, A、他	腎臓内科学部門
Clin Exp Nephtol 15:62-633,2011	Mechanism by which chronic kidney disease causes cardiovascuar disease and the measures to manage this phenomenon	kusano,E	腎臓内科学部門
Clin Exp Nephrol 15(1):126-131,2011	The effects of raloxifene on bone turnover markers and bone mineral density in women on maintenance hemodialysis	Saito, O、他	腎臓内科学部門
Clin Nephrol 76(2):83-90, 2011	Two cases of renal hypouricemia in which dopamine infusion produced a good recovery from exercise-induced acute kidney injury	Saito, O、他	腎臓内科学部門
Jichi Medical University Journal 34:91-99,2011	Changes in serum osteoprotegerin and bone turnover markers in type 2 diabetic hemodialysis	Saito, O、他	腎臓内科学部門
Ultrastruct Pathol 35(5):230-238,2011	Development and prevention of morpholodic and ultratructural changes in uremia-induced hyperplastic parathyroid gland	Shiizaki, K、他	腎臓内科学部門
Jichi Medical University Journal 34:161-167,2011	Adult onset of C1q nephropathy manifesting only as microhematuria	Sugase, T、他	腎臓内科学部門
Int Urol Nephrol in press44(1):183-196,2011	Histological heterogeneity of glomerular segmental lesions in focal segmental glomerulosclerosis	Yumura, W、他	腎臓内科学部門
Ther Spher Dial 14(6):560-565,2011	A new debice to monitor blood volume in hemodialysis patients	Yoshida, I、他	腎臓内科学部門
Clin Exp Nephrol 15(4):567-571,2011	Nephrotic syndrome and renal failure in a patient with metastatic breast cancer	Yoshizawa, H、他	腎臓内科学部門

(注) 1 当該医療機関に所属する医師等が、掲載に当たって内容審査を行っている雑誌に研究成果を原著論文として申請の前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断されるものを100件以上記入すること(当該医療機関に所属する医師等が主たる研究者であるものに限る。)。

2 「発表者氏名」欄は、1つの論文発表について発表者が複数いる場合は、主たる発表者の氏名を記入すること

（様式第11）

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元	
				補 委	
				補 委	
				補 委	

計 0

（注） 1 国、地方公共団体又は公益法人から補助金の交付又は委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技 術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。

2 「研究者氏名」欄は、1つの研究について研究者が複数いる場合には、主たる研究者の氏名を記入すること。

3 「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」に、委託の場合は「委」に、○印をつけた上で、補助元又は委託元を記入すること。

2 論文発表等の実績

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
移 植 46(3)	腎移植臨床登録集計報告（2011）-1 2010年実施症例の集計報告	八木澤 隆	腎臓センター（外科）
移 植 46(6)	腎移植臨床登録集計報告（2011）-2 2010年実施症例の集計報告	八木澤 隆	腎臓センター（外科）
腎移植症例集2011	HBV関連マーカー陽性レシピエント・ドナーの腎移植症例	石川 暢夫 他	腎臓センター（外科）
腎移植症例集2011	透析歴15年以上の患者における時腎移植	木村 貴明 他	腎臓センター（外科）
腎移植症例集2011	移植後1年目における低腎機能症例	木村 貴明 他	腎臓センター（外科）
腎移植血管外科 23(1)	顕微鏡下で腎動脈形成を行った生体腎移植の1例	木村 貴明 他	腎臓センター（外科）
今日の移植 vol24	ミコフェノール酸モフェチルからミゾリビンに変更したBKウイルス腎症の1例	木村 貴明 他	腎臓センター（外科）

計7

（注） 1 当該医療機関に所属する医師等が、掲載に当たって内容審査を行っている雑誌に研究成果を原著論文として申請の前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断される主なものを記入すること（当該医療機関に所属する医師等が主たる研究者であるものに限る）。

2 「発表者氏名」欄は、1つの論文発表について発表者が複数いる場合は、主たる発表者の氏名を記入すること。

高度医療の技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

①研究費補助等の実績　［平成23年4月－平成24年3月まで］

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託先
難治性疾患克服研究事業：特発性造血障害に関する調査研究	小澤敬也	血液学部門	2,000千円	㊀補 委 厚生労働省
基盤Ｃ：：白血病細胞のおけるRCAN1依存性の細胞機能脱制御メカニズムの解明	永井　正	血液学部門	1,430千円	㊀補 委 日本学術振興会
基盤Ｃ：IL-21抑制によるGVHD制御のメカニズム	尾崎勝俊	血液学部門	1,300千円	㊀補 委 日本学術振興会
慢性特発性血小板減少性紫斑病（ITP）に対するリツキシマブの有効性と安全性の検討を目的とした第Ⅲ相オープンラベル試験	尾崎勝俊	血液学部門	1,000千円	㊀補 委 日本医師会治験促進センター
腫瘍抑制分子Cblの腫瘍化抑制メカニズムの解明	鈴木隆浩	血液学部門	1,690千円	㊀補 委 日本学術振興会
新規白血病原因分子c-Cblによる腫瘍発生機構－増殖シグナルと細胞骨格制御機能の検討	鈴木隆浩	血液学部門	3,000千円	㊀補 委 持田記念医学薬学振興財団
若手Ｂ：間葉系幹細胞の免疫抑制能に関する研究	多々良礼音	血液学部門	1,560千円	㊀補 委 文部科学省
				補 委
				補 委
				補 委
				補 委

計7

②論文発表の実績　［平成23年4月～平成24年3月まで］

雑誌名	題名	研究者氏名	所属部門
Cytotherapy	Mesenchymal stromal cells inhibit Th17 but not regulatory T-cell differentiation.	Tatara, R., et al.	血液学部門
Bone Marrow Transplant.	Lack of IL-21 signal attenuates graft-versus-leukemia effect in the absence of CD8 T-cells.	Meguro, A., et al.	血液学部門
Blood	Randomized study of induction therapy comparing standard-dose idarubicin with high-dose daunorubicin in adult patients with previously untreated acute myeloid leukemia: the JALSG AML201 Study.	Ohtake, S., Nagai, T., et al.	血液学部門
Blood	A randomized comparison of 4 courses of standard-dose multiagent chemotherapy versus 3 courses of high-dose cytarabine alone in postremission therapy for acute myeloid leukemia in adults: the JALSG AML201 Study.	Miyawaki, S., Nagai, T., et al.	血液学部門
Int. J. Hematol.	Nilotinib as frontline therapy for patients with newly diagnosed Ph+ chronic myeloid leukemia in chronic phase: results from the Japanese subgroup of ENESTnd	Nakamae, H., Nagai, T., et al.	血液学部門
Int. J. Hematol.	Lack of non-hematological cross intolerance of dasatinib to imatinib in imatinib-intolerant patients with Philadelphia chromosome positive chronic myeloid leukemia or acute lymphatic leukemia: a retrospective safety analysis.	Kobayashi, Y., Nagai, T., et al.	血液学部門
Biochem. Pharmcol.	Vincristine potentiates the anti-proliferative effect of an aurora kinase inhibitor, VE-465, in myeloid leukemia cells.	Yoshida, K., Nagai, T., et al.	血液学部門

計7

（様式第11）

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

1 研究費補助等の実績　［平成23年4月～平成24年3月まで］

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託先
TNF受容体関連周期性症候群の病態の解明と診断基準作成に関する研究	簑田清次	アレルギー膠原病学	50万円	(補)・委 厚生労働科学研究費補助金
中枢神経ループスの診断及び活動性マーカー確立の為の研究	吉尾　卓	アレルギー膠原病学	150万円	(補)・委 文科省科学研究費補助金
				補・委
				補・委
				補・委
				補・委
				補・委
				補・委
				補・委
				補・委
				補・委
				補・委
				補・委
				補・委
				補・委
				補・委

計　2

（注）1 国、地方公共団体または公益法人からの補助金の交付または委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。
2 「研究者氏名」欄は、一つの研究について研究者が複数いる場合は、主たる研究者の氏名を記入すること。
3 「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」に、委託の場合は「委」に、○をつけた上で、補助元又は委託元を記入すること。

（様式第11）

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

2 論文発表等の実績　［平成23年4月～平成24年3月まで］

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
Rheumatology 50:906-910	Repeated local implantation of autologous peripheral blood mononuclear cells for the treatment of ischaemic digits in patients with connective tissue diseases.	釜田康行	アレルギー膠原病学
Scand J Rheumatol 40:319-321	Factors associated with cytomegalovirus antigenaemia in Japanese patients with autoimmune diseases.	長島孝夫	アレルギー膠原病学
Intern Med 50:639-42	Successful treatment of a patient with rheumatoid arthritis and IgA-Kappa multiple myeloma with tocilizumab.	松山　泰	アレルギー膠原病学
Rheumatology 50:994-996	Comment on: Usefulness of anti-cyclic citrullinated peptide antibody and rheumatoid factor to detect rheumatoid arthritis in patients with systemic sclerosis.	長島孝夫	アレルギー膠原病学
Rheumatol Int 31:705-706	Antisynthetase syndrome associated with long-standing rheumatoid arthritis.	長島孝夫	アレルギー膠原病学
Rheumatol Int 31: 559-560	Effective and safe administration of tocilizumab to a patient with rheumatoid arthritis on haemodialysis.	岩本雅弘	アレルギー膠原病学
Clin Rheumatol 30:875-876	Moderate incidence of prior rheumatoid arthritis in patients with polymyositis and dermatomyositis.	長島孝夫	アレルギー膠原病学
Rheumatol Int 31: 561-562	Successful treatment with very low-dose etanercept in a patient with etanercept-induced liver dysfunction.	岩本雅弘	アレルギー膠原病学
BMJ 343:d6854	Multiple arterial microaneurysms in polyarteritis nodosa.	釜田康行	アレルギー膠原病学

計　9

（注）1 当該医療機関に所属する医師等が、掲載に当って内容審査を行っている雑誌に研究成果を原著論文として申請の前年度に発表したもののうち、高度医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。
（当該医療機関に所属する医師等が主たる研究者であるものに限る）

2 「発表者氏名」欄は、一つの論文発表について発表者が複数いる場合には、主たる発表者の氏名を記入すること。

（様式第11）

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元	
切除不能胆道がんに対する治療法の確立に関する研究	長瀬　通隆	臨床腫瘍部	500,000	(補)委	厚生労働省
				補委	
				補委	
				補委	
				補委	
				補委	
				補委	
				補委	
				補委	
				補委	

計 1

（注） 1 国、地方公共団体又は公益法人から補助金の交付又は委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。

2 「研究者氏名」欄は、1つの研究について研究者が複数いる場合には、主たる研究者の氏名を記入すること。

3 「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」に、委託の場合は「委」に、○印をつけた上で、補助元又は委託元を記入すること。

2 論文発表等の実績

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門

計 0

（注） 1 当該医療機関に所属する医師等が、掲載に当たって内容審査を行っている雑誌に研究成果を原著論文として申請の前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断されるものを100件以上記入すること（当該医療機関に所属する医師等が主たる研究者であるものに限る。）。

2 「発表者氏名」欄は、1つの論文発表について発表者が複数いる場合は、主たる発表者の氏名を記入すること。

（様式第11）

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元	
該当なし				補 委	

計 0件

（注） 1 国、地方公共団体又は公益法人から補助金の交付又は委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。

2 「研究者氏名」欄は、1つの研究について研究者が複数いる場合には、主たる研究者の氏名を記入すること。

3 「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」に、委託の場合は「委」に、○印をつけた上で、補助元又は委託元を記入すること。

2 論文発表等の実績

雑誌名	題　　名	発表者氏名	所属部門
Transplantation 91(11):1261-1264	Living donor liver transplantations in HIV-and hepatitis C virus-coinfected hemophiliacs: experience in a single center.	森澤雄司	感染制御部
感染症学雑誌 85:370-372	皮疹を伴わない播種性淋菌感染症の1例	森澤雄司	感染制御部
Cochrane Database of Systematic Reviews, Issue 7. Art. No. CD009216.	Routine blood cultures in the management of pyelonephritis in pregnancy for improving outcomes (Protocol).	矢野晴美	感染症科
Journal of Medical Microbiology. Online publication in November 2011.	Cholangitis with septic shock caused by *Raultella planticola.*	矢野（五味）晴美	感染症科
日本内科学会雑誌 101(1):164-167.	11月熱 福島県中南部におけるタテツツガムシ媒介性つつが虫病	鵜沼直穂子	感染症科

計 5件

（注） 1 当該医療機関に所属する医師等が、掲載に当たって内容審査を行っている雑誌に研究成果を原著論文として申請の前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断されるものを100件以上記入すること（当該医療機関に所属する医師等が主たる研究者であるものに限る。）。

2 「発表者氏名」欄は、1つの論文発表について発表者が複数いる場合は、主たる発表者の氏名を記入すること。

（様式第11）

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元	
				補 委	

計 0

（注） 1 国、地方公共団体又は公益法人から補助金の交付又は委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。

2 「研究者氏名」欄は、1つの研究について研究者が複数いる場合には、主たる研究者の氏名を記入すること。

3 「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」に、委託の場合は「委」に、○印をつけた上で、補助元又は委託元を記入すること。

2 論文発表等の実績

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
Neurosci Lett 499: 24-27	The effects of mirtazapine and fluoxetine on hyperthemia induced by 3,4-methylened ioxymethamphetamine(MDMA)in rats.	Kasai, M	精神医学
Neuropsychiatr Enfance Adolesc 59:274-278	psychopathologie du syndrom d'Asperger et asperigisation de la societe contemporaine.	Kato, S	精神医学
Pharmaco psychiatry44:346-347	Pharmacoresistant convulsions and visual hallucinations around two weeks after selegiline overdose:A case report.	Kobayashi, T	精神医学
Psychogeriatrics 11: 177-182	Depressiondementia medius: In between depression and the manifestation of dementia symptoms.	Kobayashi, T	精神医学
Psychiatry Clin Neurosci 65: 226-232	Mental health status of Japanese-Brazilian children in Japan and Brazil.	Kondo, S	精神医学
Mol Autism 2: 14	Decreased expressin of axon-guidance receptors in the anterior cingulate cortex in autism.	Suda, S	精神医学
治療 93: 2353-2365	職場結合性気分障害 一職場結合性うつ病・双極性障害	加藤 敏	精神医学
臨床精神医学40 : 837-847	統合失調症の進化精神医学 一分子生物学と精神病理学の見地から一	加藤 敏	精神医学
精神療法37:33-43	統合失調症の臨床における操作的診断の意義と運用の際の問題点 −病名告知を改めて考える一	加藤 敏	精神医学
精神科診断学4 :1-10	器質力動論（H. Ey）からの診断学—勘定障碍と緊張病に注目して	加藤 敏	精神医学
精神科治療学26: 965-974	がん患者へのメンタルキャパシティへの配慮 —不意打ちの病名告知—	加藤 敏	精神医学
精神科治療学26: 1597-1605	DSM-5 ドラフトによるパーソナリティ及びパーソナリティ障害の評価の試み—統合失調症型パーソナリティ障害（DSM-IV-TR)の1例を対象として—	井上弘寿	精神医学
精神科治療学26: 1035-1043	K.Schneider を呈した抗NMDA受容体脳炎の一例	松本卓也	精神医学
睡眠医療5:222-224	睡眠脳波で評価した気分障害の睡眠状態及び睡眠構造について	西多昌規	精神医学
精神神経学雑誌113: 553-573	「職場関連」気分障害患者の臨床特性 -非関連群との比較.	岡崎 翼	精神医学
精神医学 53:347-349	胃癌の告知を契機に否定妄想から「梅毒に感染した」という心気妄想へと発展した症例.	高山 剛	精神医学
精神神経学雑誌113: 351-358	食べ物の色に関する妄想知覚を主症状とした高齢初統合失調症症例.	安田 学	精神医学

計 17

（注） 1 当該医療機関に所属する医師等が、掲載に当たって内容審査を行っている雑誌に研究成果を原著論文として申請の前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断されるものを100件以上記入すること（当該医療機関に所属する医師等が主たる研究者であるものに限る。）。

2 「発表者氏名」欄は、1つの論文発表について発表者が複数いる場合は、主たる発表者の氏名を記入すること。

（様式第11）

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元	
接触過敏反応におけるIL-33-ST2Lの関与についての検討	小宮根 真弓	皮膚科学	1,700,000 円	(補) 委	文部科学省 科研費
稀少難知性皮膚疾患に関する調査研究	小宮根 真弓	皮膚科学	1,500,000 円	(補) 委	厚生労働省 科研費
				補 委	
				補 委	
				補 委	
				補 委	
				補 委	
				補 委	
				補 委	
				補 委	

計 2

（注） 1 国、地方公共団体又は公益法人から補助金の交付又は委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。

2 「研究者氏名」欄は、1つの研究について研究者が複数いる場合には、主たる研究者の氏名を記入すること。

3 「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」に、委託の場合は「委」に、〇印をつけた上で、補助元又は委託元を記入すること。

2 論文発表等の実績

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
J Dermatol. 2012 Jan 4. doi: 10.1111/j.1346-8138.2011.01466.x.	Nadifloxacin downregulates the production of matrix metalloproteinases in the human epidermal keratinocyte cell line HaCaT.	Hosoda S	皮膚科
J Dermatol Sci. 2012 Jan; 65(1): 72-4	Ultraviolet B irradiation induces the expression of IL-33 mRNA and protein in normal human epidermal keratinocytes.	Meephansan J	皮膚科
Acta Derm Venereol. Acta Derm Venereol. 2012 Mar; 92(2) :164-6.	Case of IgG/IgA Pemphigus Presenting Malar Rash-like Erythema.	Hosoda S	皮膚科
J Dermatol. 2011 Sep 28. doi: 10.1111/j.1346-8138.2011.01315.x.	Pemphigoid gestationis with a complete hydatidiform mole.	Takatsuka Y	皮膚科
J Dermatol. 2011 Jul;38(7) 655-60. doi: 10.1111/j.1346-8138.2010.01053.x.	J Dermatol. 2011 Jul;38(7):655-60. doi: 10.1111/j.1346-8138.2010.01053.x.	Karakawa M	皮膚科

計 5

（注） 1 当該医療機関に所属する医師等が、掲載に当たって内容審査を行っている雑誌に研究成果を原著論文として申請の前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断されるものを１００件以上記入すること（当該医療機関に所属する医師等が主たる研究者であるものに限る。）。

2 「発表者氏名」欄は、１つの論文発表について発表者が複数いる場合は、主たる発表者の氏名を記入すること。

（様式第11）

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

1 研究費補助等の実績　［平成23年4月～平成24年3月まで］

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託先
ケロイドにおける遺伝子発現制御の解明	須永　中	形成外科	700,000	㊚補 委 文部科学省　科学研究費補助金
生体内再構成皮膚を用いた新規ケロイド動物モデルの作成	宮﨑邦夫	形成外科	1,400,000	(補) 委 文部科学省　科学研究費補助金
高刺通性次世代型縫合針低コスト化のための超精密プレス研削複合機の開発	菅原康志	形成外科	2,425,500	補 (委) 財団法人にいがた産業創造機構
				補 委
				補 委
				補 委
				補 委
				補 委
				補 委
				補 委
				補 委
				補 委
				補 委
				補 委
				補 委
				補 委

計3件

（注）1 国、地方公共団体または公益法人からの補助金の交付または委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。

2 「研究者氏名」欄は、一つの研究について研究者が複数いる場合は、主たる研究者の氏名を記入すること。

3 「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」に、委託の場合は「委」に、○をつけた上で、補助元又は委託元を記入すること。

2 論文発表等の実績　［平成23年4月～平成24年3月まで］

雑　誌　名	題　　　名	発表者氏名	所属部門
外科治療	皮弁採取部の閉創における2-オクチルシアノアクリレートの有用性	宮崎邦夫	形成外科
日本形成外科学会雑誌	2-オクチルシアノアクリレートを用いて閉創した，口唇裂術後瘢痕の整容的評価	宮崎邦夫	形成外科
Plast. Reconstr . Surg.	How long does the nipple projection last after reconstruction using the skate flap purse-string technique?	Katsuragi, Y.	形成外科
J. Plast. Reconstr . Aesthet. Surg.	Mandible reconstruction using the calcium-sulphate three-dimensional model and rubber stick: a new method, 'mould technique', for more accurate, efficient and simplified fabrication.	Katsuragi, Y.	形成外科
PEPARS	【口唇部周囲の組織欠損】下口唇再建　局所皮弁による下口唇の再建(1).	去川俊二	形成外科
PEPARS	【Craniosynostosis・先天性頭蓋顔面骨異常の治療】非症候群性頭蓋縫合早期癒合症 Brachycephaly短頭症　Oxycephaly小頭症.	菅原康志	形成外科
PEPARS	【眼瞼の退行性疾患に対する眼形成外科手術】上眼瞼の退行性(加齢性)疾患　皮膚弛緩症　うわまぶたのたるみを主訴とする眉毛挙上術　退行性皮膚弛緩症に対する眉毛挙上術.	宇田宏一	形成外科
形成外科	【『眼窩底骨折の診断と治療』ガイドライン作成にあたっての私の提言】再建材に関するクリニカル・クエッションを作成して.	菅原康志	形成外科

計8件

(注) 1　当該医療機関に所属する医師等が、掲載に当って内容審査を行っている雑誌に研究成果を原著論文として申請の前年度に発表したもののうち、高度医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。(当該医療機関に所属する医師等が主たる研究者であるものに限る)

2　「発表者氏名」欄は、一つの論文発表について発表者が複数いる場合には、主たる発表者の氏名を記入すること。

（様式第11）

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

1 研究費補助等の実績　［平成23年4月～平成24年3月まで］

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託先	
新規血管新生調整因子バソヒビンによる婦人性器がん分子標的・遺伝子治療に関する研究	嵯峨　泰	産婦人科	1,430,000	(補) 委	文部科学省研究費補助金 基盤研究（C）
免疫性不妊女性における抗透明帯抗体のクラス分類と不妊治療への応用	鈴木　達也	産婦人科	4,160,000	(補) 委	文部科学省学術研究助成基金助成金　基盤研究（C）
クラミジア熱ショックタンパク質の卵管炎病態形成への関与	平野　由紀	産婦人科	1,430,000	(補) 委	文部科学省研究費補助金 基盤研究（C）
妊娠高血圧腎症における赤血球脂肪酸構成：症例対照研究およびコホート研究	松原　茂樹 大口　昭英 他	産婦人科	2,000,000	(補) 委	日母おぎゃー献金基金 研究費補助金
胎盤特異的マイクロRNAの機能解析と異常妊娠早期診断への臨床応用のための基盤研究	松原　茂樹 （分担研究）	産婦人科	650,000	(補) 委	文部科学省研究費補助金 基盤研究（B）
				補 委	
				補 委	
				補 委	
				補 委	
				補 委	
				補 委	
				補 委	
				補 委	
				補 委	
				補 委	

計　5

（注）1 国、地方公共団体または公益法人からの補助金の交付または委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。

2 「研究者氏名」欄は、一つの研究について研究者が複数いる場合は、主たる研究者の氏名を記入すること。

3 「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」に、委託の場合は「委」に、○をつけた上で、補助元又は委託元を記入すること。

(様式第11)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

2 論文発表等の実績　[平成23年4月～平成24年3月まで]

雑　誌　名	題　　　名	発表者氏名	所属部門
Arch Gynecol Obstet 2011;283:135-137	Resumption of sinus rhythm from fetal complete atrioventricuclar block after maternally administered ritodrine.	Matsubara S	産科
Arch Gynecol Obstet 2011;283:669-670	Pseudoaneurysm; a chameleon in obstetrical emergency practice.	Matsubara S	産科
J MedCase Reports 2011;5:14	Thin anterior uterine wall with incomplete uterine rupture in a primigravida detected by palpation and ultrasound: a case report.	Matsubara S	産科
J Obstet Gynaecol Res 2011;37:1137-1140	A pregnant woman with clinical and radiological findings compatible with posterior reversible encephalopathy syndrome in early pregnancy without discernable underlying disorders: atypical type of this syndrome?	Matsubara S	産科
Arch Gynecol Obstet 2011;283:1423-1425	Headache in late pregnancy: a symptom for Vogt-Koyanagi-Harada disease.	Matsubara S	産科
J Obstet Gynaecol Res 2011;37:377-378	Vaginal artery embolization with a permanent embolic agent for intractable postpartum hemorrhage.	Matsubara S	産科
Arch Gynecol Obstet 2011;37:1466-1469	Bladder-opening technique for hysterectomy for placenta previa percreta.	Matsubara S	産科
J Obstet Gynaecol Res 2011;37:1466-1469	Spontaneous spinal epidural hematoma at the 16th week of a twin pregnancy.	Matsubara S	産科
J Obstet Gynaecol Res 2011;37:481	Misquoting Page's classification for placental abruption in Japan?	Matsubara S	産科
J Obstet Gynaecol Res 2011;37:672	Rhabdomyolysis caused by tocolytic therapy with oral ritodrine hydrochloride in a pregnant woman with placenta previa: Is this a rare case with a latent predisposing condition?	Matsubara S	産科
Inter Urogynecol J 2011;22:1045	Factors influencing long-term pessary use. Comment.	Matsubara S	産科
Minimal Invasive Gynecology 2011;18:411-412	Uterine artery pseudoaneurysm after cesarean section: not always within the uterus.	Matsubara S	産科
J Obstet Gynaecol Res 2011;37:963-964	Jaundice as the first manifestation of primary biliary cirrhosis during pregnancy; measurement of portal vein blood flow.	Matsubara S	産科
J Obstet Gynaecol Res 2011;37:965	Retained products of conception with marked vascularity: pseudoaneurysm hidden behind it.	Matsubara S	産科
J Obstet Gynaecol Res 2011;37:967-968	Failure of mid-trimester pregnancy termination: ruptured rudimentary uterine horn pregnancy.	Matsubara S	産科
J Obstet Gynaecol 2011;31:509-509	Forceps holding the cervix for postpartum haemorrhage.	Matsubara S	産科

計　16

(注) 1 当該医療機関に所属する医師等が、掲載に当って内容審査を行っている雑誌に研究成果を原著論文として申請の前年度に発表したもののうち、高度医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。(当該医療機関に所属する医師等が主たる研究者であるものに限る)

2 「発表者氏名」欄は、一つの論文発表について発表者が複数いる場合には、主たる発表者の氏名を記入すること。

(様式第11)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

2 論文発表等の実績　[平成23年4月～平成24年3月まで]

雑　誌　名	題　　　名	発表者氏名	所属部門
J Obstet Gynaecol 2011;31:665-665	Prior cesarean section involving the uterine body, cerclage, preterm labor contraction, and uterine rupture.	Matsubara S	産科
Acta Obstet Gynecol Scand 2011;90:1455-1455	Holding the uterine cervix may induce uterine contractions in atonic bleeding.	Matsubara S	産科
Arch Gynecol Obstet 2011;284:1047-1048	Is it true that placenta previa *per se* in not a risk factor for perinatal mortality?	Matsubara S	産科
J Obstet Gynaecol Can2011 2011;33:794-795	Adenosine for maternal supraventricular tachycardia and preterm delivery.	Matsubara S	産科
Rural Remote Health 2011;11:1859	Patterns of transfer in labour and birth in rural New Zealand(Commnet)	Matsubara S	産科
J Reprod Med 2011;56:91-92	Autoamputation of fetal/neonatal ovarian tumor suspected by a "side change"of the tumor.	Kuwata T	産科
J Obstet Gynaecol Res 2011;37:921-925	Decreased fetal movement prompted the investigation of prenatal/neonatal nemaline myopathy; the possible merit of fetal movement count.	Kuwata T	産科
Pediatr Int 2011;53:281-282	Urinary ascites in a fetus with posterior urethral valve; antenatal diagnosis.	Kuwata T	産科
J Clin Ultraousnd 2011;39:274-275	Large vasa previa mimicking a small forebag.	Kuwata T	産科
J Obstet Gynaecol Res 2011;37:1174-1197	Guidelines for obstetrical practice in Japan:JSOG and JAOG, 2011.	Kuwata T	産科
J Obstet Gynaecol Res 2011;37:1208-1211	No increase in hemorrhagic complications with thromboprophylaxis using low molecular weight heparin soon after cesarean section.	Watanabe T	産科
J Pediatr Adolescent Gynecol 2011;24:e101-102	Comment on "Menstrual disorders in adolescent school girls in Enugu, Nigeria" by Nwankwo et al: does adolescent dysmenorrhea ameliorate after age 20?	Watanabe T	産科
Acta Obstet Gynecol Scand 2011;90:927-928	Massive subchorionic thrombohematoma: termination should not be discouraged by antenatal diagnosis.	Asada K	産科
Hypertens Res 2011;34:212-217	Gestational hypertension as a subclinical preeclampsia in view of serum leverls of angiogenesis-related factors.	Hirashima C	産科
J Perinatal Med 2011;39:151-155	C-reactive protein levels at pre/post-indicated cervical cerclage points predict very preterm birth.	Kobayashi M	産科
J Med Ultrasonics 2011;38:243-245	Another "double bubble" sign or "double bladder" sign: fetal intra-abdominal umbilical vein varix.	Kuwata T	産科

計　16

(注) 1 当該医療機関に所属する医師等が、掲載に当って内容審査を行っている雑誌に研究成果を原著論文として申請の前年度に発表したもののうち、高度医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。(当該医療機関に所属する医師等が主たる研究者であるものに限る)

2 「発表者氏名」欄は、一つの論文発表について発表者が複数いる場合には、主たる発表者の氏名を記入すること。

(様式第11)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

2 論文発表等の実績　[平成23年4月～平成24年3月まで]

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
Hypertension 2011;58:859-866	Threshold of soluble fms-like tyrosine kinase 1/placental growth factor ratio for the imminent onset of preeclampsia.	Ohkuchi A	産科
J Med Case Report 2011;5:523	Intestinal adhesion due to previous uterine surgery as a risk factor for delayed diagnosis of uterine rupture?A Case report.	Kuwata T	産科
Vaccine 2011;29:6441-6442	Free school-based vaccination with HPV vaccine in a Japanese city.	Fujiwara H	婦人科
Jpn J Clin Oncol 2011;41:278-282	A randomized phase II/III trial of 3 weekly intraperitoneal versus intravenous carboplatin in combination with intravenous weekly dose-dense paclitaxel for newly diagnosed ovarian, fallopian tube and primary peritoneal cancer.	Suzuki M 他	婦人科
J Atheroscler Thromb 2011;18(3):190-199	Depot-specific expression of lipolytic genes in human adipose tissues--association among CES1 expression, triglyceride lipase activity and adiposity.	Fujiwara H Ohwada M Suzuki M 他	婦人科
Int J Oncol 2011;38:113-12	Indoleamine 2,3-dioxygenase promotes peritoneal dissemination of ovarian cancer through inhibition of natural killercell function and angiogenesis promotion.	Nonaka H	婦人科
Cancer Chemother Pharmacol 2012;69(3):599-603	Evaluation of a formula for individual dosage of nedaplatin based on renal function.	Fujiwara H Machida S, Takaei Y Suzuki M 他	婦人科
Cancer Sci 2011;102:2272-2277	Development of a mouse model for lymph node metastasis with endometrial cancer.	Takahashi K	婦人科
Int J Oncol 2012;40(4):929-934	Indoleamine-2,3-dioxygenase, an immunosuppressive enzyme that inhibits natural killer cell function, as a useful target for ovarian cancer therapy.	Wang D Saga Y 他	婦人科
Int J Gynecol Pathol 2011;30:129-138	Validation of the histologic grading for ovarian clear cell adenocarcinoma: a retrospective multi-institutional study by the Japan Clear Cell Carcinoma Study Group.	Fujiwara H 他	婦人科
日本産科婦人科内視鏡学会雑誌 2011;27:251-254	癒着による小腸通過障害に対して、小腸内視鏡による診断と腹腔鏡下癒着剥離術を施行した婦人科手術後の2例.	町田　静生	婦人科
栃木県産婦人科医報 2011;37:15-17	当院における腹腔鏡下手術の検討.	町田　静生　他	婦人科
日本ｴﾝﾄﾞﾒﾄﾘｵｰｼｽ学会雑誌 2011;32:146-149	子宮内膜症に対するジェノゲストと低用量ピルの治療効果および副作用の検討.	種市　明代	婦人科

計　１３

合計　４５

(注) 1 当該医療機関に所属する医師等が、掲載に当って内容審査を行っている雑誌に研究成果を原著論文として申請の前年度に発表したもののうち、高度医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。(当該医療機関に所属する医師等が主たる研究者であるものに限る)

2 「発表者氏名」欄は、一つの論文発表について発表者が複数いる場合には、主たる発表者の氏名を記入すること。

（様式第11）

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元	
				補 委	
				補 委	
				補 委	
				補 委	
				補 委	
				補 委	
				補 委	
				補 委	
				補 委	
				補 委	

計 0

（注） 1 国、地方公共団体又は公益法人から補助金の交付又は委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。

2 「研究者氏名」欄は、1つの研究について研究者が複数いる場合には、主たる研究者の氏名を記入すること。

3 「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」に、委託の場合は「委」に、○印をつけた上で、補助元又は委託元を記入すること。

2 論文発表等の実績

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
栃木県産婦人科医報 37:10-14	ＩＣＳＩによる低受精率症例の検討～卵活性化法の導入に向けて～	森田辰男 黒川真輔	泌尿器科学
癌と化学療法 38(6):967-972	酢酸ゴセレリン注射時における局所冷却による疼痛緩和効果の検討	貫井昭徳	泌尿器科学
泌尿器外科 24(4):635-638	ドライマウス症状スコアを用いたイミダフェナシンによる口腔乾燥の臨床的検討	鈴木一実	泌尿器科学
西日本泌尿器科 73(12):659-665	内分泌療法抵抗性前立腺癌に対するドセタキセル療法についての検討	鷲野聡	泌尿器科学
Int J Clin Oncol 16:630-635	Clinical efficacy of primary combined androgen blockade for Japanese men with clinically localized prostate cancer	小林実	泌尿器科学
Urol Int 87(4):420-428	Clinical Usefulness of CEA, CA19-9, and CYFRA 21-1 as Tumor Makers for Urothelial Bladder Carcinoma.	鷲野聡	泌尿器科学

計 6

（注） 1 当該医療機関に所属する医師等が、掲載に当たって内容審査を行っている雑誌に研究成果を原著論文として申請の前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断されるものを100件以上記入すること（当該医療機関に所属する医師等が主たる研究者であるものに限る。）。

2 「発表者氏名」欄は、1つの論文発表について発表者が複数いる場合は、主たる発表者の氏名を記入すること。

（様式第11）

高度の医療技術の開発及び評価の実績

1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元	
線溶系遺伝子変異マウスを用いた聴覚における線溶系の機能解析	石川浩太郎	耳鼻咽喉科学	1,300,000	(補) 委	文部科学省科学研究費補助金
Usher症候群に関する調査研究	石川浩太郎	耳鼻咽喉科学	500,000	(補) 委	厚生労働科学研究費補助金
優性遺伝形式をとる遺伝性難聴に関する調査研究	石川浩太郎	耳鼻咽喉科学	500,000	(補) 委	厚生労働科学研究費補助金
ギャラニン受容体2型導入による頭頸部癌遺伝子治療の前臨床研究	金澤丈治	耳鼻咽喉科学	2,210,000	(補) 委	文部科学省科学研究費補助金
				補 委	
				補 委	
				補 委	
				補 委	

計 4

（注） 1 国、地方公共団体又は公益法人から補助金の交付又は委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技 術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。

2 「研究者氏名」欄は、1つの研究について研究者が複数いる場合には、主たる研究者の氏名を記入すること。

3 「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」に、委託の場合は「委」に、〇印をつけた上で、補助元又は委託元を記入すること。

2 論文発表等の実績

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
小児耳鼻 32(3):187-191	小児急性中耳炎に対するFeuerstein Split Tubeの使用報告	藤澤 嘉郎	耳鼻咽喉科学
耳鼻臨床 104(6):419-425	視力障害を呈した副鼻腔疾患手術10例の検討	菊池 恒	耳鼻咽喉科学
頭頸部外科21(2):139-144	当科における鼻副鼻腔乳頭腫62症例の検討	菊池 恒	耳鼻咽喉科学
小児耳鼻 32(3):352-.359	小児のアレルギー性鼻炎におけるKTPレーザー治療の有用性の検討-アンケート調査を中心に一	菊池 恒	耳鼻咽喉科学
日耳鼻 115(2):108-111	オスラー病において鼻粘膜皮膚置換術を行った22例の臨床的検討	菊池 恒	耳鼻咽喉科学
耳鼻臨床 105(1):77-82	術中の反回神経モニター(NIM monitor)の有用性と問題点の検討	菊池 恒	耳鼻咽喉科学
口腔咽頭科 25(1):85-89	コブレーションシステムを用いて舌扁桃摘出術を行った舌扁桃肥大例	菊池 恒	耳鼻咽喉科学
口腔咽頭科 25(1):127-132	コブレーションシステムを用いた口蓋扁桃摘出術における術後出血例の検討	菊池 恒	耳鼻咽喉科学
小児耳鼻 33(1):6-11	口蓋形成時に鼓膜換気チューブ留置術を施行した症例の検討	笹村 佳美	耳鼻咽喉科学
Laryngoscope 121(8) 1715-1717	A new method of nasal dermoplasty(MW grafting method) in patients with large septal perforation	Ichimura,K	耳鼻咽喉科学
Auris Nasus Larynx 39:59-64	Are patients with severe epistaxis caused by hereditary hemorrhagic telangiectasia satisfied with nostril closure surgery ?	Ichimura,K	耳鼻咽喉科学
Annals of vascular diseases 4(3)189-195	Current reconstructive techniques following head and neck cancer resection using microvascular surgery	Kanazawa,T	耳鼻咽喉科学

計 12

（注） 1 当該医療機関に所属する医師等が、掲載に当たって内容審査を行っている雑誌に研究成果を原著論文として申請の前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断される主なものを記入すること（当該医療機関に所属する医師等が主たる研究者であるものに限る）。

2 「発表者氏名」欄は、1つの論文発表について発表者が複数いる場合は、主たる発表者の氏名を記入すること。

（様式第11）

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元	
末期緑内障患者の視野障害が自動車運転能力に与える危険性の評価	国松　志保	眼科学	780,000	(補) 委	文部科学省
				補 委	
				補 委	
				補 委	
				補 委	
				補 委	
				補 委	
				補 委	
				補 委	
				補 委	

計 1

（注） 1 国、地方公共団体又は公益法人から補助金の交付又は委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。

2 「研究者氏名」欄は、1つの研究について研究者が複数いる場合には、主たる研究者の氏名を記入すること。

3 「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」に、委託の場合は「委」に、〇印をつけた上で、補助元又は委託元を記入すること。

2 論文発表等の実績

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
臨床眼科 65:12-15	眼科図譜 LCAT(lecithin-cholesterol acyltransferase)欠損症に伴った角膜混濁の1例	石崎　こずえ	眼科学
眼科臨床紀要 4:557-560	網膜中心静脈閉塞症に網膜中心動脈閉塞、毛様網膜動脈閉塞を併発した鉄欠乏性貧血の1例	富永　経一郎	眼科学
眼科手術 24:508-512	外傷性低眼圧黄斑症に強膜内陥単独手術が奏功した1例	佐々木　郁惠	眼科学
日本視能訓練士協会誌 40:47-52	外斜視における交代性上斜位の頻度と検出年齢	保沢　こずえ	眼科学
眼科臨床紀要 4:1060-1063	後期緑内障患者の視野障害度と読書能力	平林　里恵	眼科学

計 5

（注） 1 当該医療機関に所属する医師等が、掲載に当たって内容審査を行っている雑誌に研究成果を原著論文として申請の前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断されるものを100件以上記入すること（当該医療機関に所属する医師等が主たる研究者であるものに限る。）。

2 「発表者氏名」欄は、1つの論文発表について発表者が複数いる場合は、主たる発表者の氏名を記入すること。

（様式第11）

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元	
腰下肢痛治療における硬膜外腔鏡とスプリングコイルカテーテルの位置付けに関する研究	五十嵐孝	麻酔科	2,200,000	(補) 委	日本学術振興会
				補 委	
				補 委	
				補 委	
				補 委	
				補 委	
				補 委	
				補 委	
				補 委	
				補 委	

計 1

(注) 1 国、地方公共団体又は公益法人から補助金の交付又は委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。

2 「研究者氏名」欄は、1つの研究について研究者が複数いる場合には、主たる研究者の氏名を記入すること。

3 「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」に、委託の場合は「委」に、○印をつけた上で、補助元又は委託元を記入すること。

2 論文発表等の実績

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
日本臨床麻酔学会誌	エピドラスコピーの歴史	五十嵐孝	麻酔科

計 1

(注) 1 当該医療機関に所属する医師等が、掲載に当たって内容審査を行っている雑誌に研究成果を原著論文として申請の前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断されるものを100件以上記入すること（当該医療機関に所属する医師等が主たる研究者であるものに限る。）。

2 「発表者氏名」欄は、1つの論文発表について発表者が複数いる場合は、主たる発表者の氏名を記入すること。

（様式第11）

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元	
fMRIによる口腔癌術後患者の構音機能回復機序の解明	岡田 成生	歯科口腔外科	500,000	(補) 委	文部科学省科学研究費補助金
				補 委	
				補 委	
				補 委	
				補 委	
				補 委	
				補 委	
				補 委	
				補 委	
				補 委	

計 1

(注) 1 国、地方公共団体又は公益法人から補助金の交付又は委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。

2 「研究者氏名」欄は、1つの研究について研究者が複数いる場合には、主たる研究者の氏名を記入すること。

3 「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」に、委託の場合は「委」に、○印をつけた上で、補助元又は委託元を記入すること。

2 論文発表等の実績

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
日口粘膜誌 17(1):17-21,'11	舌対称性脂肪腫症の1例	加藤 領子	歯科口腔外科
日口診誌 24(3):326-329,'11	静脈石を伴った頬部血管腫の1例	小野寺 博子	歯科口腔外科
歯科放射線 51(3):27-28,'11	鑑別に注意を要した両側頸部多発リンパ節腫脹の2例	篠崎 泰久	歯科口腔外科
日口外誌 57(9):506-509,'11	下顎下縁部に発生した周辺生骨腫の1例	杉山 知子	歯科口腔外科
児口外 21(2):156-158,'11	4か月の女児に生じた骨形成性エプーリスの1例	上野 泰弘	歯科口腔外科
Asian J Oral maxillofac Surg 23: 191-195,'11	An autopsy case of primary madibular osteosarcoma	Itoh H.	歯科口腔外科
日口診誌 58(2):67-71,'12	歯性感染症によるガス壊疽を伴った眼窩内膿瘍の1例	土屋 欣之	歯科口腔外科
日口診誌 25(1):71-74,'12	広範な口腔粘膜病変を認めた腫瘍随伴性天疱瘡の1例	上野 泰弘	歯科口腔外科
J Cranio-Maxillofac Surg 40:61-66,'12	Bare bone graflt with vascularised iliac crest for mandibular reconstruction	Sakukawa Y.	歯科口腔外科

計 9

(注) 1 当該医療機関に所属する医師等が、掲載に当たって内容審査を行っている雑誌に研究成果を原著論文として申請の前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断されるものを100件以上記入すること（当該医療機関に所属する医師等が主たる研究者であるものに限る。）。

2 「発表者氏名」欄は、1つの論文発表について発表者が複数いる場合は、主たる発表者の氏名を記入すること。

（様式第11）

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元	
FOXP2遺伝子改変マウスを用いた脳構造機能の進化と言語獲得の分子基盤の研究	桃井 真里子	小児科学	1,500,000	(補)・委	文部科学省科学研究費補助金 新学術領域研究
自閉性障害におけるERストレス活性化の証明と治療介入モデルの作成	桃井 真里子	小児科学	1,600,000	(補)・委	文部科学省科学研究費補助金 基盤研究(C)
G蛋白結合型受容体とシナプスを標的とした共通病態基盤同定と自閉性障害治療法開発	山形 崇倫	小児科学	5,500,000	(補)・委	文部科学省科学研究費補助金 基盤研究(B)
ランゲルハンス細胞組織球症に対する骨免疫学的視点からの病態解明	森本 哲	小児科学	1,100,000	(補)・委	文部科学省科学研究費補助金 基盤研究(C)
サイトカイン・遺伝子発現および遺伝子多型解析による新生児疾患の免疫学的病態解析	高橋 尚人	総合周産期母子医療センター	2,300,000	(補)・委	文部科学省科学研究費補助金 基盤研究(B)
サイトカイン、転写因子測定による新生児仮死と脳室内出血の免疫学的病態解析	小池 泰敬	総合周産期母子医療センター	1,000,000	(補)・委	文部科学省科学研究費補助金 若手研究(B)
自閉性障害の病態に関与する候補遺伝子群の網羅的遺伝子発現解析	中島 尚美	小児科学	900,000	(補)・委	文部科学省科学研究費補助金 若手研究(B)
プロテオミクス分析による小児特発性微小変化型ネフローゼ症候群発症原因蛋白の同定	小高 淳	小児科学	2,400,000	(補)・委	学術研究助成基金助成金 若手研究(B)
C型肝炎ウイルスの変異及び免疫複合体が母子感染に与える影響についての検討	横山 孝二	小児科学	1,500,000	(補)・委	学術研究助成基金助成金 若手研究(B)
重症・難治性急性脳症の病因解明と診療確立に向けた研究	山形 崇倫	小児科学	500,000	(補)・委	厚生労働省 難治性疾患克服研究事業
メタボローム解析による筋型糖原病の画期的診断スクリーニング法の確立と治療推進の研究	杉江 秀夫	小児科学	10,000,000	(補)・委	厚生労働省 難治性疾患克服研究事業
日本人脆弱X症候群および関連疾患の診断・治療推進の研究	杉江 秀夫	小児科学	700,000	(補)・委	厚生労働省 難治性疾患克服研究事業
筋ジストロフィーおよび関連疾患の診断・治療開発を目指した基盤研究	杉江 秀夫	小児科学	1,000,000	補・(委)	厚生労働省(国立精神神経センター) 精神・神経疾患研究開発事業
発達障害の診断および治療法開発に関する臨床研究	杉江 秀夫	小児科学	1,800,000	補・(委)	厚生労働省(国立精神神経センター) 精神・神経疾患研究開発事業
乳児ランゲルハンス細胞組織球症の標準治療の確立と新規治療法の開発	森本 哲	小児科学	11,304,000	(補)・委	厚生労働省 難治性疾患克服研究事業
重症新生児のアウトカム改善に関する多施設共同研究	河野 由美	総合周産期母子医療センター	3,000,000	(補)・委	厚生労働省 成育疾患克服等次世代育成基盤研究事業
周産期医療の質と安全の向上のための研究	河野 由美	総合周産期母子医療センター	3,000,000	(補)・委	厚生労働省 地域医療基盤開発推進研究事業
メタボローム解析による筋型糖原病の画期的診断スクリーニング法の確立と治療推進の研究	福田 冬季子	小児科学	1,000,000	(補)・委	厚生労働省 難治性疾患克服研究事業
				補・委	

計 18

（注） 1 国、地方公共団体又は公益法人から補助金の交付又は委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。

2 「研究者氏名」欄は、1つの研究について研究者が複数いる場合には、主たる研究者の氏名を記入すること。

3 「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」に、委託の場合は「委」に、○印をつけた上で、補助元又は委託元を記入すること。

2 論文発表等の実績

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
Pediatr Int	Elevated serum interleukin-7 level on idiopathic steroid-sensitive nephrotic syndrome.	金井 孝裕	小児科学
J. Inherit. Met. Dis. Reports	Foot process effacement with normal urinalysis in classic Fabry disease.	金井 孝裕	小児科学
Pediatrics	Selectively high level of serum interleukin 5 in a newborn infant with cow's milk allergy,	小池 泰敬	総合周産期母子 医療センター
Pediatr Int	White matter damage in a neonate of disseminated herpes simplex virus infection.	小島 華林	小児科学
Pediatrics International	Outcomes of very low birth weight infants at three years of age born in 2003- 2004 in Japan.	河野 由美	総合周産期母子 医療センター
Pediatrics International	Neonatal correlates of adverse outcomes in very low birth weight infants in NICU-Network.	河野 由美	総合周産期母子 医療センター
Clin Res Hepatol Gastroenterol	Resolution of cyclic vomiting after appendectomy in a girl.	熊谷 秀規	小児科学
Pediatric cardiology	Trisomy 13 in a 9-year-old girl with left ventricular noncompaction.	門田 行史	小児科学
Pediatr Blood Cancer	For the LCH Committee, the Japanese Pediatric Leukemia /Lymphoma Study Group, Nationwide Survey of Bisphosphonate Therapy for Children with Reactivated Langerhans Cell Histiocytosis in Japan.	森本 哲	小児科学
Blood Coagul Fibrinolysis	Cost effectiveness of prophylactic treatment with activated prothrombin complex concentrate in a patient with inhibitor-positive hemophilia A.	中村 幸恵	小児科学
Japan. Emerg Inf Dis	Pandemic (H1N1) 2009 in neonates,	髙橋 尚人	総合周産期母子 医療センター
Blood.Pediatr Int	The association of chronic lung disease with Ureaplasma colonization and Interleukin-8 of cord.	矢田 ゆかり	総合周産期母子 医療センター
Arch Viro	Identification and characterization of a natural inter-genotypic (2b/1b) recombinant hepatitis C virus in Japan.	横山 孝二	小児科学

計 13

（様式第11）

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元	
食道閉鎖症モデルの作成および生医療を応用した食道再建術の開	小野 滋	小児外科学	2,470,000円	(補) 委	日本学術振興会
				補 委	
				補 委	
				補 委	
				補 委	
				補 委	
				補 委	
				補 委	
				補 委	

計 1

（注） 1 国、地方公共団体又は公益法人から補助金の交付又は委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技 術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。

2 「研究者氏名」欄は、1つの研究について研究者が複数いる場合には、主たる研究者の氏名を記入すること。

3 「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」に、委託の場合は「委」に、○印をつけた上で、補助元又は委託元を記入すること。

2 論文発表等の実績

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
Pediatr Surg Int	The efficacy of slide tracheoplasty in a growing rabbit model	Takano Y	小児外科学
Pediatr Surg Int	Mesenchymal hamartoma of the bilateral chest wall in neonates	Tsuji Y	小児外科学
Pediatr Surg Int	Protective mechanism of glutamine on the expression of proliferating cell nuclear antigen after cisplatin-induced intestinal mucosal injury	Tazuke Y	小児外科学
Pediatr Surg Int	Innominate artery transection for patients with severe chest deformity: optimal indication and	Maeda K	小児外科学

計 4

（注） 1 当該医療機関に所属する医師等が、掲載に当たって内容審査を行っている雑誌に研究成果を原著論文として申請の前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断される主なものを記入すること（当該医療機関に所属する医師等が主たる研究者であるものに限る）。

2 「発表者氏名」欄は、1つの論文発表について発表者が複数いる場合は、主たる発表者の氏名を記入すること。

（様式第11）

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元	
小児泌尿器科学標準治療法の確立とデータベース構築に関する研究	上岡克彦(主任) 中井秀郎(分担)	小児泌尿器科	100万円	(補) 委	厚生労働省科学研究費
				補 委	
				補 委	
				補 委	
				補 委	
				補 委	
				補 委	
				補 委	
				補 委	
				補 委	

計 1

（注）1 国、地方公共団体又は公益法人から補助金の交付又は委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技 術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。

2 「研究者氏名」欄は、1つの研究について研究者が複数いる場合には、主たる研究者の氏名を記入すること。

3 「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」に、委託の場合は「委」に、○印をつけた上で、補助元又は委託元を記入すること。

2 論文発表等の実績

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
British Journal of Urology 2011 Apr	Transurethral incision of congenital obstructive lesions in the posterior urethra in boys and its effect on urinary incontinence and urodynamic study	Shigeru Nakamura(筆頭) Hideo Nakai(共著)	小児泌尿器科
Journal of Pediatric Urology 2011 Dec	A multi-center study of pediatric uroflowmetry data using patterning software	Shina Kawai（共著） Hideo Nakai（共著）	小児泌尿器科

計 2

（注）1 当該医療機関に所属する医師等が、掲載に当たって内容審査を行っている雑誌に研究成果を原著論文として申請の前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断される主なものを記入すること（当該医療機関に所属する医師等が主たる研究者であるものに限る）。

2 「発表者氏名」欄は、1つの論文発表について発表者が複数いる場合は、主たる発表者の氏名を記入すること。

（様式第11）

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元	
				補 委	
				補 委	
				補 委	
				補 委	
				補 委	
				補 委	
				補 委	
				補 委	

計 0

（注） 1 国、地方公共団体又は公益法人から補助金の交付又は委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技 術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。

2 「研究者氏名」欄は、1つの研究について研究者が複数いる場合には、主たる研究者の氏名を記入すること。

3 「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」に、委託の場合は「委」に、〇印をつけた上で、補助元又は委託元を記入すること。

2 論文発表等の実績

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
日小整会誌20:178－180	小児の腓骨遠位部骨髄炎の一例	稙元崇	小児整形外科
日小整会誌20:206－211	大腿骨頭すべり症に対するin situ pinning症例の治療成績	雨宮昌栄	小児整形外科
日小整会誌20:202－205	Ray amputationを行った巨趾症の一例	佐々木洋和	小児整形外科
日小整会誌20:36－39	乳幼児期発症側弯症に対するRisser−Cotrel cast	渡邉英明	小児整形外科
Bone Joint Nerve 1: 223-228	Perthes病における外来保存治療の限界	雨宮昌栄	小児整形外科
厚生の指標 58(2):21－26	子ども医療センター開設から約1年半における小児整形外科外来新患患者動向	渡邉英明	小児整形外科
Thrombosis Research 128: e137-143	Predictive blood coagulation markers for early diagnosis of venous thromboembolism after total knee joint replacement.	Watanabe H	小児整形外科
J of Arthroplasty 26:1488-1493	The incidence of venous thromboembolism before and after total knee arthroplasty using 16-row multidetector computed tomography	Watanabe H	小児整形外科

計 8

（注） 1 当該医療機関に所属する医師等が、掲載に当たって内容審査を行っている雑誌に研究成果を原著論文として申請の前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断される主なものを記入すること（当該医療機関に所属する医師等が主たる研究者であるものに限る）。

2 「発表者氏名」欄は、1つの論文発表について発表者が複数いる場合は、主たる発表者の氏名を記入すること。

（様式第11）

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元	
統合失調症と感情障害の中間型に対する疫学調査（分担研究）	阿部隆明	子どもの心の診療科	65000	(補)委	文部科学省
				補委	
				補委	
				補委	
				補委	
				補委	
				補委	
				補委	
				補委	
				補委	

計　1

（注） 1 国、地方公共団体又は公益法人から補助金の交付又は委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。

2 「研究者氏名」欄は、1つの研究について研究者が複数いる場合には、主たる研究者の氏名を記入すること。

3 「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」に、委託の場合は「委」に、○印をつけた上で、補助元又は委託元を記入すること。

2 論文発表等の実績

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
精神科診断学 4(1):97-103,2011	自閉症スペクトラム障害と気分障害（うつ病）との関連について－小児・思春期を中心に－	阿部隆明	子どもの心の診療科

計　1

（注） 1 当該医療機関に所属する医師等が、掲載に当たって内容審査を行っている雑誌に研究成果を原著論文として申請の前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断されるものを100件以上記入すること（当該医療機関に所属する医師等が主たる研究者であるものに限る。）。

2 「発表者氏名」欄は、1つの論文発表について発表者が複数いる場合は、主たる発表者の氏名を記入すること。

（様式第11）

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

1 研究費補助等の実績　　なし

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元	
				補 委	
				補 委	
				補 委	
				補 委	
				補 委	
				補 委	
				補 委	
				補 委	
				補 委	
				補 委	

計　0

（注）1　国、地方公共団体又は公益法人から補助金の交付又は委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技 術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。

2 「研究者氏名」欄は、1つの研究について研究者が複数いる場合には、主たる研究者の氏名を記入すること。

3 「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」に、委託の場合は「委」に、○印をつけた上で、補助元又は委託元を記入すること。

2 論文発表等の実績

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
J Pediatr Hematol Oncol. 33(2):141-3,2011	Mesenteric venous thrombosis in a child with type 2 protein S deficiency.	Hayakawa, T	小児科

計　1

（注）1 当該医療機関に所属する医師等が、掲載に当たって内容審査を行っている雑誌に研究成果を原著論文として申請の前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断される主なものを記入すること（当該医療機関に所属する医師等が主たる研究者であるものに限る）。

2 「発表者氏名」欄は、1つの論文発表について発表者が複数いる場合は、主たる発表者の氏名を記入すること。

（様式第11）

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元	
				補 委	
				補 委	
				補 委	
				補 委	
				補 委	
				補 委	
				補 委	
				補 委	
				補 委	
				補 委	

計 0

（注） 1 国、地方公共団体又は公益法人から補助金の交付又は委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。

2 「研究者氏名」欄は、1つの研究について研究者が複数いる場合には、主たる研究者の氏名を記入すること。

3 「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」に、委託の場合は「委」に、○印をつけた上で、補助元又は委託元を記入すること。

2 論文発表等の実績

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
人工呼吸 28: 76-82.	集中治療を要した2009A/H1N1インフルエンザ感染症8例の治療経験.	田中進一郎	集中治療医学部門
日本集中治療医学会雑誌 18: 617-622	両側尿管結石と重症急性膵炎の同時発症を契機に診断された若年性原発性副甲状腺機能亢進症の1例	田中進一郎	集中治療医学部門
ICUとCCU 35: 1111-1116.	生後13日の生体肝移植に成功した新生児劇症肝不全の1例.	田中進一郎	集中治療医学部門
ICUとCCU 36: 53-57.	人工呼吸器関連肺炎予防のための看護ケアの臨床的検討.	宮沢玲子	集中治療部
麻酔 61: 170-176.	重症筋無力症に対する胸腺摘出術後筋無力性クリーゼの予測因子についての検討.	鯉沼俊貴	集中治療医学部門

計 5

（注） 1 当該医療機関に所属する医師等が、掲載に当たって内容審査を行っている雑誌に研究成果を原著論文として申請の前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断されるものを100件以上記入すること（当該医療機関に所属する医師等が主たる研究者であるものに限る。）。

2 「発表者氏名」欄は、1つの論文発表について発表者が複数いる場合は、主たる発表者の氏名を記入すること。

（様式第11）

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元	
血液細胞における糖鎖を含む抗原の発現解析と細胞機能及び病態との関係の解明	室井一男	輸血・細胞移植部	166万円	(補) 委	日本学術振興会科学研究費助成事業
				補 委	
				補 委	
				補 委	
				補 委	
				補 委	
				補 委	
				補 委	
				補 委	
				補 委	

計 1

合計72

（注） 1 国、地方公共団体又は公益法人から補助金の交付又は委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。

2 「研究者氏名」欄は、1つの研究について研究者が複数いる場合には、主たる研究者の氏名を記入すること。

3 「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」に、委託の場合は「委」に、○印をつけた上で、補助元又は委託元を記入すること。

2 論文発表等の実績

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
Hematology, 16(4): 221-224, 2011.	Use of cryoprotectant-depleted allogeneic peripheral blood stem cells for transplantation.	Kazuo Muroi	輸血・細胞移植部
Rheumatology (Oxford), 50(5): 906-910, 2011.	Repeated local implantation of autologous peripheral blood mononuclear cells for the treatment of ischaemic digits in patients with connective tissue diseases.	Kazuo Muroi	輸血・細胞移植部
日本輸血細胞治療学会誌, 57(3): 184-187, 2011.	院内における血液細胞処理のための指針.	室井一男	輸血・細胞移植部
日本輸血細胞治療学会誌, 57(4): 283-288,2011.	自家末梢血幹細胞採取における標準的中心静脈カテーテルの使用.	室井一男	輸血・細胞移植部

計 4

合計334

（注） 1 当該医療機関に所属する医師等が、掲載に当たって内容審査を行っている雑誌に研究成果を原著論文として申請の前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断されるものを100件以上記入すること（当該医療機関に所属する医師等が主たる研究者であるものに限る。）。

2 「発表者氏名」欄は、1つの論文発表について発表者が複数いる場合は、主たる発表者の氏名を記入すること。

(様式第 12)

診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の管理方法

管理責任者氏名	病院長	安田　是和
管理担当者氏名	病院事務部長	稲垣　寛

			保管場所	管理方法
診療に関する諸記録 病院日誌、各科診療日誌、処方せん、手術記録、看護記録、検査所見記録、エックス線写真、紹介状、退院した患者に係る入院期間中の診療経過の要約及び入院診療計画書			病歴室及びそれぞれの部署にて電子管理	患者ごとの患者受診登録番号による
病院の管理及び運営に関する諸記録	従業者数を明らかにする帳簿		人事課	
	高度の医療の提供の実績		医事課	
	高度の医療技術の開発及び評価の実績		経営管理課	
	高度の医療の研修の実績		経営管理課	
	閲覧実績		経営管理課	
	紹介患者に対する医療提供の実績		医事課	
	入院患者数、外来患者及び調剤の数を明らかにする帳簿		経営管理課及び薬剤部	
	規則第一条の十一第一項各号及び第九条の二十三第一項第一号に掲げる体制の確保の状況	医療に係る安全管理のための指針の整備状況	医療安全対策部	
		医療に係る安全管理のための委員会の開催状況	医療安全対策部	
		医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	医療安全対策部	
		医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の状況	医療安全対策部	
		専任の医療に係る安全管理を行う者の配置状況	人事課	
		専任の院内感染対策を行う者の配置状況	人事課	
		医療に係る安全管理を行う部門の設置状況	人事課	
		当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況	経営管理課	

			保管場所	分類方法
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第一条の十一第一項各号及び第九条の二十三第一項第一号に掲げる体制の確保の状況	院内感染のための指針の策定状況	感染制御部	
		院内感染対策のための委員会の開催状況	感染制御部	
		従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	感染制御部	
		感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の実施状況	感染制御部	
		医薬品の使用に係る安全な管理のための責任者の配置状況	薬剤部	
		従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	薬剤部	
		医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況	薬剤部	
		医薬品の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	薬剤部	
		医療機器の安全使用のための責任者の配置状況	医療安全対策部	
		従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	医療安全対策部	
		医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	用度課及び臨床工学部	
		医療機器の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	医療安全対策部	

(注)　「診療に関する諸記録」欄には、個々の記録について記入する必要はなく、全体としての管理方法の概略を記入すること。

(様式第 13)

病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法及び紹介患者に対する医療提供の実績

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法

閲覧責任者氏名	病院長　安田　是和
閲覧担当者氏名	病院事務部長　稲垣　寛
閲覧の求めに応じる場所	会議室

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧の実績

前年度の総閲覧件数		延　0　件
閲覧者別	医師	延　0　件
	歯科医師	延　0　件
	国	延　0　件
	地方公共団体	延　0　件

○紹介患者に対する医療提供の実績

紹介率	73.0　%	算定期間	平成23年4月1日～平成24年3月31日
算出根拠	A：紹介患者の数	24,011	人
	B：他の病院又は診療所に紹介した患者の数	23,811	人
	C：救急用自動車によって搬入された患者の数	1,889	人
	D：初診の患者の数	44,277	人

(注)　1 「紹介率」欄は、A、B、Cの和をBとDの和で除した数に 100 を乗じて小数点以下第 1 位まで記入すること。

2　A、B、C、Dは、それぞれの延数を記入すること。

（様式第 13-2）

規則第１条の１１第１項各号及び第９条の２３第１項第１号に掲げる体制の確保の状況

① 医療に係る安全管理のための指針の整備状況	有・無 （有に丸印）
・ 指針の主な内容： 医療事故報告体制 医療安全対策委員会、及びその他院内組織に関すること 重大事故発生時の対応	
② 医療に係る安全管理のための委員会の開催状況	年１２回
・ 活動の主な内容： インシデント・アクシデントレポートの報告状況 事例報告・検討 医療安全対策	
③ 医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	年６０回
・ 研修の主な内容： 静脈麻酔薬による鎮静・胃チューブの挿入から管理まで 救急蘇生ガイドラインについて　ＡＥＤ研修会 危険薬説明会　　輸液・シリンジポンプ研修会	
④ 医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の状況	
・ 医療機関内における事故報告等の整備　　（ 有・無 ）（有に丸印） ・ その他の改善のための方策の主な内容： 事例検討会　　リスクマネージャー会議や医療安全対策講演会 院内巡視　　研修会の開催　　ＫＹ（危険予知）ポストの設置（システム）	
⑤ 専任の医療に係る安全管理を行う者の配置状況	有（ ３名）・無 （有に丸印）
⑥ 専任の院内感染対策を行う者の配置状況	有（ ８名）・無 （有に丸印）
⑦ 医療に係る安全管理を行う部門の設置状況	有・無 （有に丸印）
・ 所属職員： 専任（５）名 兼任（１３）名 ・ 活動の主な内容： 職員研修、及び、講演会の企画・運営　　事例の情報収集・分析・検討 医療安全対策委員会、リスクマネージャー会議の開催 医療事故発生時の対応　　インシデント・アクシデントレポートシステムの管理	
⑧ 当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況	有・無 （有に丸印）

(様式第 13-2)

院内感染対策のための体制の確保に係る措置

① 院内感染対策のための指針の策定状況	(有)・無
・ 指針の主な内容： 院内感染対策に関する基本的な考え方 院内感染対策に関連する委員会に関する基本的事項 院内感染対策のための従事者に対する研修に関する基本方針 感染症の発生状況の報告とそれに対する対応に関する基本方針 患者等に対する当該指針の閲覧に関する基本方針 その他の当該病院等における院内感染対策の推進のために必要な基本方針	
② 院内感染対策のための委員会の開催状況	年１２回
・ 活動の主な内容： 病院長が積極的に感染対策に関わり、院内感染対策委員会、ICT 、感染制御部が中心となって、すべての職員に対して組織的な対応と教育・啓発活動をする。 院内感染対策委員会で検討した事項は病院長に諮問した上で日常業務化する。 感染制御部長は ICT および感染制御部を統括する。 感染管理認定看護師は感染管理リンクスタッフ勉強会を主催、統括する。	
③ 従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	年６５回
・ 研修の主な内容： 新入職員対象オリエンテーション（全職種向け：年１回・看護師向け：年３回） 新入臨床研修医向け実習：年１回、研修医向け合同講習会：年１回 中途採用者対象講演会：年１回 全職員対象医療安全・感染対策合同講演会：年２回（同一内容のDVD上映会を各２回実施） 全職員対象感染対策講演会：年２回（同一内容で１日２回実施） 看護補助員研修会：年２回 ICT　外来・病棟部門監査フォローアップ勉強会：年３７回 リンクスタッフ（所属部署の感染管理担当者）勉強会：年１１回	
④ 感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の状況	
・ 病院における発生状況の報告等の整備　（(有)・無　） ・ その他の改善のための方策の主な内容： 感染制御部は臨床検査部・細菌検査室から微生物データを営業日に提供を受けて状況を把握している。 すべての職員に配布した感染対策マニュアルにアウトブレイク対応の手順が明記されている。 感染管理基礎データを収集して病棟毎に侵襲的処置の状況を月毎に確認している。 すべての病棟から MRSA 検出症例に関する状況を日報として感染制御部へ報告している。 医療従事者の針刺し・切創について感染症科の協力を得て常時対応としている。 独立した感染症科が組織横断的なコンサルテーション診療による適正抗菌療法を図っている。	

(様式第 13-2)

医薬品に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医薬品の使用に係る安全な管理のための責任者の配置状況	有・無 (有に丸印)
② 従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	年４回

- 研修の主な内容：

  看護部新規採用者オリエンテーション（医薬品の使用）
  レジデントオリエンテーション（麻薬の取り扱い）
  安全塾（麻薬の取り扱い）
  病棟・外来勉強会（危険薬の取り扱い）

③ 医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況

- 手順書の作成　（有・無）(有に丸印)
- 業務の主な内容：

  手順書の改正
  チェックリストに基づく実施状況の確認
  病棟ラウンド及び私立医科大学病院医療安全相互ラウンド

④ 医薬品の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況

- 医薬品に係る情報の収集の整備　（有・無）(有に丸印)
- その他の改善のための方策の主な内容：

  日本医療機能評価機構主催の薬剤安全セミナー等への参加
  日本医療コンフリクト・マネジメント学会等へ参加し、医薬品の安全使用に関する情報の収集
  特殊有床病棟への薬剤師配置による麻薬・危険薬等の適正使用管理
  抗がん剤のレジメン管理とレジメンに基づく抗がん剤の調製

（様式第　13-2）

医療機器に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

①医療機器の安全使用のための責任者の配置状況	有・無
②従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	年 67 回
・研修の主な内容： 1.人工呼吸器について(医師、看護師対象) 2.輸液シリンジポンプについて(看護師対象) 3.除細動器について(医師・看護師対象) 4.AED について(看護師対象)	
③医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	
・計画の策定(有・無) ・保守点検の主な内容 1 人工心肺装置及び補助循環装置　2 人工呼吸器　3 血液浄化装置　4 除細動装置 5 閉鎖式保育器　6 診療用高エネルギー放射線発生装置　7 診療用放射線照射装置について保守点検計画を策定し実施している。	
④医療機器の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	
・医療機器に係る情報の収集の整備(有・無) ・その他の改善のための方策の主な内容 1.医療機器の安全使用のために必要な情報を収集した場合は、共通の認識を持つために関連部署への情報提供 2.医療機器の安全使用のための研修会実施 3.医療機器の安全使用を目的とした事例の分析、検討、報告 4.医療安全対策部において医療安全に係る情報を掲載した「あんぜん便り」という文書を作成、ホームページにアップロードするとともに各部署のリスクマネージャーあてに配布することにより、医療機器の安全使用を目的とした改善策等についての情報を提供している。	